

平成30事業年度

事業報告書

日本中央競馬会

I 業務の実施状況

1. 平成 30 事業年度の業務の実施状況

(1) 競馬の実施等

① 競馬の開催状況

・開催回数 36 回 ・開催日数 288 日

(内訳)

競馬場	開催回数	開催日数	競馬場	開催回数	開催日数
札幌競馬場	2 回	12 日	東京競馬場	5 回	45 日
函館競馬場	2 回	12 日	中京競馬場	4 回	26 日
福島競馬場	3 回	20 日	京都競馬場	5 回	44 日
新潟競馬場	3 回	26 日	阪神競馬場	5 回	42 日
中山競馬場	5 回	41 日	小倉競馬場	2 回	20 日

② 発売金及び開催競馬場入場人員

発 売 金	2 兆 8,161 億 6,370 万 8,300 円
入場人員	626 万 6,912 名

③ 国庫納付金

第 1 国庫納付金	2,805 億 8,781 万 4,500 円
第 2 国庫納付金	277 億 3,437 万 0,621 円

④ 主な業績項目の数値

項 目		数 式	当該事業年度数値
競馬開催計画 達成率	開催回数	開催実施回数／開催計画回数	100%
	開催日数	開催実施日数／開催計画日数	100%
職員一人当り の効率	対売上収入	売得金額／職員数	1,591,536 千円
	対入場人員	入場人員数／職員数	3,554 人
対売上収益率		剰余金／売得金額	1.97%

(2) 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録

〔J R A所属〕				〔その他〕※ i ii	
登録の種類	登録の数	取消の数	本事業年度末数	国際関係	地方関係
馬主の登録	176 名	103 名	2,473 名	5(7)名	71 名
競走馬登録	5,392 頭	5,223 頭	8,597 頭	7(7)頭	116 頭
服色の登録	136 件	105 件	1,935 件	5(7)件	—

※ i 「国際関係」：国際交流競走に係わる登録の数（カッコ内は取消の数）

ii 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる登録の数（取消の数は登録と同数）

(3) 調教師及び騎手の免許

〔J R A所属〕※ i ii				〔その他〕※ iii iv v		
免許の種類	免許の数	取消の数	本事業年度末数	短期	国際関係	地方関係
調教師の免許	193 名	1 名	192 名	—	7 名	105 名
騎手の免許	137 名	4 名	133 名	16 名	12 名	97 名

※ i 「免許の数」：3月1日付免許者数

ii 「取消の数」：免許期間を満了せずに事業年度途中で取り消した者の数

iii 「短期」：臨時試験による短期騎手免許者数（延人数）

iv 「国際関係」：国際交流競走・国際騎手招待競走に係わる免許者数（延人数）

v 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる免許者数（延人数）

(4) 競走馬の育成

日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、育成研究を目的として市場購買馬（平成 29 年購買の 2 歳馬 74 頭及び平成 30 年購買の 1 歳馬 75 頭）の育成を行いました。

また、日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、生産育成研究を目的として J R A 生産馬（当歳馬 9 頭、1 歳馬 6 頭及び 2 歳馬 5 頭）の育成を行いました。

(5) 騎手の養成・訓練

競馬学校において騎手の養成を行い、3 名が卒業しました。平成 30 事業年度末現在の在校生数は 21 名となっています。

(6) 日本中央競馬会法第19条第2項第4号に掲げる業務

上記(1)～(5)の業務のほか、競馬の健全な発展を図るため必要な業務を行いました。そのうち、特別振興資金を使用して、競馬振興事業を実施しました。

合計金額 11,326,885,926 円

(7) 畜産振興事業

特別振興資金を使用して、畜産振興事業を実施しました。

合計金額 3,894,828,490 円

(8) 払戻金への上乗せ

特別振興資金を使用して、1号給付金及び2号給付金を払戻金に上乗せしました。

1号給付金 3,078,455,120 円

2号給付金 3,371,090,300 円

合計金額 6,449,545,420 円

(9) 競走馬生産振興業務への交付

地方競馬全国協会が行う「競走馬生産振興業務」に対して、特別振興資金を使用して、交付金を交付しました。

合計金額 2,455,000,000 円

(10) 認定競馬活性化計画補助業務への交付

地方競馬全国協会が行う「認定競馬活性化計画補助業務」に対して、特別振興資金を使用して、交付金を交付しました。

合計金額 737,793,099 円

(11) 借入金、財政投融資資金及び国庫補助金等による資金調達の状況

該当ありません。

2. 前事業年度までにおける業務の実施状況

(1) 競馬の実施等

① 競馬の開催状況

事業年度	平成 27 年		平成 28 年		平成 29 年	
	開催回数	開催日数	開催回数	開催日数	開催回数	開催日数
札幌競馬場	2 回	12 日	2 回	12 日	2 回	12 日
函館競馬場	2 回	12 日	2 回	12 日	2 回	12 日
福島競馬場	3 回	20 日	3 回	20 日	3 回	20 日
新潟競馬場	3 回	24 日	3 回	26 日	3 回	26 日
中山競馬場	5 回	42 日	5 回	41 日	5 回	41 日
東京競馬場	5 回	46 日	5 回	45 日	5 回	45 日
中京競馬場	4 回	24 日	4 回	26 日	4 回	26 日
京都競馬場	5 回	47 日	5 回	45 日	5 回	44 日
阪神競馬場	5 回	41 日	5 回	41 日	5 回	42 日
小倉競馬場	2 回	20 日	2 回	20 日	2 回	20 日
合 計	36 回	288 日	36 回	288 日	36 回	288 日

② 発売金及び開催競馬場入場人員

事業年度	発 売 金	入場人員
平成 27 年	2, 588, 691, 862, 100 円	6, 317, 073 名
平成 28 年	2, 688, 449, 518, 700 円	6, 300, 662 名
平成 29 年	2, 768, 992, 863, 200 円	6, 175, 238 名

③ 国庫納付金

事業年度	第 1 国庫納付金	第 2 国庫納付金
平成 27 年	258, 339, 186, 980 円	24, 228, 431, 130 円
平成 28 年	268, 039, 029, 810 円	29, 325, 628, 755 円
平成 29 年	275, 783, 957, 790 円	29, 657, 225, 757 円

④ 主な業績項目の数値

項 目		平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
競馬開催計画	100%	100%	100%	100%
達成率	100%	100%	100%	100%
職員一人当りの効率	対売上収入	1,473,697 千円	1,529,030 千円	1,568,736 千円
	対入場人員	3,603 人	3,594 人	3,512 人
対売上収益率		1.87%	2.18%	2.15%

(2) 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録

① 馬主の登録

〔J R A 所属〕			〔その他〕※ i ii		
事業年度	登録の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
平成 27 年	158 名	133 名	2,360 名	5(3) 名	39 名
平成 28 年	147 名	125 名	2,382 名	2(6) 名	30 名
平成 29 年	135 名	117 名	2,400 名	5(5) 名	38 名

② 競走馬登録

〔J R A 所属〕			〔その他〕※ i ii		
事業年度	登録の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
平成 27 年	5,081 頭	5,057 頭	7,789 頭	7(7) 頭	103 頭
平成 28 年	5,445 頭	4,972 頭	8,262 頭	4(4) 頭	92 頭
平成 29 年	5,358 頭	5,192 頭	8,428 頭	7(7) 頭	106 頭

③ 服色の登録

〔J R A所属〕			〔その他〕 ※ i	
事業年度	登録の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係
平成 27 年	132 件	140 件	1,902 件	5(3) 件
平成 28 年	113 件	119 件	1,896 件	2(6) 件
平成 29 年	140 件	132 件	1,904 件	5(5) 件

※ i 「国際関係」：国際交流競走に係わる登録の数（カッコ内は取消の数）

（３）調教師及び騎手の免許

① 調教師の免許

〔J R A所属〕 ※ i ii			〔その他〕 ※ iv v		
事業年度	免許の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
平成 27 年	200 名	1 名	199 名	7 名	87 名
平成 28 年	199 名	2 名	197 名	4 名	83 名
平成 29 年	200 名	0 名	200 名	7 名	94 名

② 騎手の免許

〔J R A所属〕 ※ i ii			〔その他〕 ※ iii iv v			
事業年度	免許の数	取消の数	当該事業年度末数	短期	国際関係	地方関係
平成 27 年	130 名	2 名	128 名	14 名	9 名	91 名
平成 28 年	133 名	0 名	133 名	24 名	7 名	70 名
平成 29 年	136 名	2 名	134 名	14 名	12 名	101 名

- ※ i 「免許の数」：3月1日付免許者数
 ii 「取消の数」：免許期間を満了せずに事業年度途中で取り消した者の数
 iii 「短期」：臨時試験による短期騎手免許者数（延人数）
 iv 「国際関係」：国際交流競走・国際騎手招待競走に係わる免許者数（延人数）
 v 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる免許者数（延人数）

(4) 競走馬の育成

事業年度	育成頭数	(内訳)	当歳馬	1歳馬	2歳馬
平成 27 年	168(22)頭		8(8)頭	81(7)頭	79(7)頭
平成 28 年	168(20)頭		5(5)頭	82(8)頭	81(7)頭
平成 29 年	167(19)頭		6(6)頭	79(5)頭	82(8)頭

※ ()内は育成した J R A 生産馬の頭数 (内数)

(5) 騎手の養成・訓練

事業年度	競馬学校卒業者数	当該事業年度末在校生数
平成 27 年	4 名	18 名
平成 28 年	6 名	18 名
平成 29 年	5 名	18 名

(6) 日本中央競馬会法第 19 条第 2 項第 4 号に掲げる業務

- ① 平成 27 年、平成 28 年及び平成 29 年の各事業年度において、上記 (1) ～ (5) の業務のほか、競馬の健全な発展を図るため必要な業務を実施しました。
- ② 競馬振興事業

事業年度	金 額
平成 27 年	4,894,213,773 円
平成 28 年	17,010,950,160 円
平成 29 年	7,465,342,865 円

(7) 畜産振興事業

事業年度	金 額
平成 27 年	2,921,391,621 円
平成 28 年	2,567,101,421 円
平成 29 年	3,958,595,216 円

(8) 払戻金への上乗せ

事業年度	金 額
平成 27 年	4,191,765,190 円
平成 28 年	5,385,899,940 円
平成 29 年	6,141,790,280 円

(内訳)

1 号給付金	2 号給付金
2,334,714,270 円	1,857,050,920 円
2,662,825,980 円	2,723,073,960 円
3,125,295,820 円	3,016,494,460 円

(9) 競走馬生産振興業務への交付

事業年度	金 額
平成 27 年	1,350,000,000 円
平成 28 年	600,000,000 円
平成 29 年	1,000,000,000 円

(10) 認定競馬活性化計画補助業務への交付

事業年度	金 額
平成 27 年	1,029,292,700 円
平成 28 年	903,396,217 円
平成 29 年	4,410,370,016 円

(11) 借入金、財政投融资資金及び国庫補助金等による資金調達の状況

平成 27 年、平成 28 年及び平成 29 年の各事業年度について、該当ありません。

Ⅱ 日本中央競馬会の概要

1. 業務の内容

日本中央競馬会は、競馬の健全な発展を図って馬の改良増殖その他畜産の振興に寄与することを目的とし、その目的を達成するため次の業務を行うことが法定されています。

(1) 業務内容

- ① 中央競馬の実施
- ② 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録
- ③ 調教師及び騎手の免許
- ④ 競走馬の育成
- ⑤ 騎手の養成・訓練
- ⑥ 競馬法第 21 条に基づき委託を受ける競馬の実施に関する事務
- ⑦ その他競馬の健全な発展を図るため必要な業務
- ⑧ 畜産振興事業等について助成することを業務とする法人に対し、当該助成に必要な資金の全部又は一部を交付する業務
- ⑨ 競馬法附則第 5 条第 1 項第 1 号及び第 2 号に規定する当該勝馬投票の的中者に対し、給付金を交付する業務
- ⑩ 地方競馬全国協会が行う競走馬生産振興業務に対し、交付金を交付する業務（平成 34 事業年度までの間）
- ⑪ 地方競馬全国協会が行う認定競馬活性化計画補助業務に対し、交付金を交付する業務（平成 34 事業年度までの間）

(2) 根拠規定

日本中央競馬会法（昭和 29 年 7 月 1 日法律第 205 号）第 19 条

競馬法（昭和 23 年 7 月 13 日法律第 158 号）附則第 5 条及び第 8 条

2. 各事務所の所在地

名 称	郵便番号	住 所	電話番号
本 部	106-8401	港区六本木 6 丁目 11 番 1 号	03-3591-5251
馬 事 公 苑	158-8523	世田谷区上用賀 2 丁目 1 番 1 号	03-3429-5101
競 馬 学 校	270-1431	白井市根 835 番地の 1	047-491-0333
競走馬総合研究所	329-0412	下野市柴 1400 番 4 号	0285-44-0090
日 高 育 成 牧 場	057-0171	北海道浦河郡浦河町字西舎 535 番地の 13	0146-28-1211
宮 崎 育 成 牧 場	880-0036	宮崎市花ヶ島町大原 2347 番地	0985-25-3448
栗東トレーニング ・センター	520-3085	栗東市御園 1028 番地	077-558-0101
美浦トレーニング ・センター	300-0493	茨城県稲敷郡美浦村大字美駒 2500 番地 の 2	029-885-2111
札 幌 競 馬 場	060-0016	札幌市中央区北 16 条西 16 丁目 1 番 1 号	011-726-0461
函 館 競 馬 場	042-8585	函館市駒場町 12 番 2 号	0138-53-1021
福 島 競 馬 場	960-8114	福島市松浪町 9 番 23 号	024-534-2121
新 潟 競 馬 場	950-3301	新潟市北区笹山 3490 番地	025-259-3141
中 山 競 馬 場	273-0037	船橋市古作 1 丁目 1 番 1 号	047-334-2222
東 京 競 馬 場	183-0024	府中市日吉町 1 番地の 1	042-363-3141
中 京 競 馬 場	470-1132	豊明市間米町敷田 1225 番地	052-623-2001
京 都 競 馬 場	612-8265	京都市伏見区葭島渡場島町 32 番地	075-631-3131
阪 神 競 馬 場	665-0053	宝塚市駒の町 1 番 1 号	0798-51-7151
小 倉 競 馬 場	802-0841	北九州市小倉南区北方 4 丁目 5 番 1 号	093-962-3236

3. 資本金の総額及び政府の出資額並びにこれらの増減

資本金の総額	政府の出資額	前期末比増減
4,924,129,000 円	全額政府出資	0

4. 役員の定数並びに各役員の氏名、役職、任期及び経歴等（平成 30 年末現在）

（1）役員の定数

理事長 1 人、副理事長 1 人、理事 10 人以内及び監事 3 人以内

(2) 各役員の氏名、役職、任期、経歴

役 職	氏 名	任 期	経 歴
理 事 長	後藤 正幸	2017 年 9 月 12 日～2020 年 9 月 11 日	日本中央競馬会常務理事
副理事長	町田 勝弘	2017 年 3 月 1 日～2020 年 2 月 29 日	(一社) J A 共済 総合研究所理事長
常務理事	木所 康夫	2017 年 3 月 1 日～2019 年 2 月 28 日	日本中央競馬会理事
常務理事	山下 正行	2018 年 10 月 1 日～2020 年 9 月 30 日	日本中央競馬会理事
理 事	福井 紳弥	2017 年 3 月 1 日～2019 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 美浦トレーニングセンター場長
理 事	峯島 善弘	2017 年 3 月 1 日～2019 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 ウインズ事業運営部長
理 事	中村 嘉宏	2017 年 3 月 1 日～2019 年 2 月 28 日	日本中央競馬会審判部長
理 事	谷崎 潤	2017 年 3 月 1 日～2019 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 栗東トレーニングセンター場長
理 事	木村 一人	2017 年 3 月 1 日～2019 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 総合企画部長
理 事	吉田 正義	2017 年 3 月 1 日～2019 年 2 月 28 日	日本中央競馬会競走部長
理 事	吉崎 一郎	2017 年 3 月 1 日～2019 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 東京競馬場場長
監 事	小日向照夫	2017 年 10 月 1 日～2019 年 9 月 30 日	日本中央競馬会人事部長
監 事 (非常勤)	矢島 匡	2018 年 9 月 16 日～2020 年 9 月 15 日	弁護士
監 事 (非常勤)	小谷実可子	2018 年 9 月 16 日～2020 年 9 月 15 日	NPO 法人 日本ホスピタリティ協会理事

(3) 役員の異動

- ① 9 月 16 日付けで矢島匡監事、小谷実可子監事が再任されました。
- ② 10 月 1 日付けで山下正行常務理事が再任されました。

5. 職員の定数及びその増減 (平成 30 年末現在)

職員の定数	前期末比増減
1, 7 6 3 人	5 人

6. 日本中央競馬会の沿革

昭和29年	○ 日本中央競馬会の設立（9月16日） 昭和23年に当時の「日本競馬会」の業務を継承したいわゆる「国営競馬」を引き継いで、競馬法（昭和23年7月13日法律第158号）により競馬を行う特殊法人として、日本中央競馬会法（昭和29年7月1日法律第205号）により設立
平成3年	○ 競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律の施行 ① 馬主の登録制度並びに調教師及び騎手の免許制度の改善 ② 馬主登録等がより公正に行われるための審査会の設置 ③ 日本中央競馬会の剰余金を有効に活用するための特別振興資金及び特別給付資金の新設 ④ 競馬振興事業及び畜産振興事業の新設 ⑤ 単勝式及び複勝式の勝馬投票の的中者に対し、特別給付金を交付する特別給付業務の新設
平成17年	○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 ① 中央競馬の実施に関する事務を政令で定めるところにより都道府県等に委託することができることを新たに規定 ② 勝馬投票券の購入等の制限の対象から成年である学生生徒が除外 ③ 単勝式及び複勝式の払戻率を改正（特別給付業務は平成16年末までの分をもって終了） ○ 「行政改革の重要方針」の閣議決定（12月24日） ① 現行の組織形態（特殊法人）を継続 ② 競馬の公正・中立性の確保上支障のない範囲において主務大臣の関与・規制の緩和 ③ 競争入札への移行の促進、子会社等の統合、外部監査の導入等を図ること
平成19年	○ 競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律の施行 ① 経営委員会の設置 ② 農林水産大臣の関与及び規制の緩和（規約についての関与の緩和、役員の任免等に関して大臣認可を不要とすること等） ③ 1号給付金及び2号給付金を交付する業務の新設
平成24年	○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 払戻金の算出方法の見直し
平成27年	○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 海外競馬の競走についての勝馬投票の実施

7. 根拠法 日本中央競馬会法

8. 主務大臣 農林水産大臣

9. 経営委員会の概要（平成 30 年末現在）

経営委員会は、日本中央競馬会法第 8 条の 2 の規定に基づいて設置され、農林水産大臣が任命する委員 6 人及び理事長の 7 人により構成されています。

（１）各委員の氏名、任期及び職名等

氏 名	任 期	職 名 等
青山 佳世	2016 年 9 月 1 日～2019 年 8 月 31 日	フリーアナウンサー
上田 廣一	2016 年 9 月 1 日～2019 年 8 月 31 日	弁護士
小林 栄三 (委員長代理)	2016 年 9 月 1 日～2019 年 8 月 31 日	伊藤忠商事（株）特別理事
近藤 和行	2016 年 9 月 1 日～2019 年 8 月 31 日	（株）読売新聞東京本社編集委員
矢野 秀雄	2016 年 9 月 1 日～2019 年 8 月 31 日	京都大学名誉教授
和田 紀夫 (委員長)	2016 年 9 月 1 日～2019 年 8 月 31 日	日本電信電話（株）特別顧問

（２）経営委員会の開催概要

① 第 1 回経営委員会（1 月 24 日）

- ・ 平成 29 年度の中央競馬の実績の報告 ほか

② 第 2 回経営委員会（2 月 20 日）

- ・ 平成 30 事業年度予算実施計画（案）の議決
- ・ 海外競馬の勝馬投票券の発売について（平成 30 年）（案）の議決 ほか

③ 第 3 回経営委員会（3 月 15 日）

- ・ 平成 29 事業年度決算（案）の議決 ほか

④ 第 4 回経営委員会（4 月 19 日）

- ・ 日本中央競馬会における役員の給与等の支給の基準等の一部改正について（案）の議決
- ・ 平成 29 事業年度経営目標の達成状況に係る自己評価について ほか

⑤ 第 5 回経営委員会（5 月 25 日）

- ・ 平成 29 事業年度経営目標の達成状況の評価
- ・ 場外設備の変更申請（札幌場外勝馬投票券発売所及び道頓堀場外勝馬投票券発売所（案）の議決 ほか

⑥ 第 6 回経営委員会（6 月 21 日）

- ・ 平地競走におけるクラス分け（競走条件制度）の変更について

- ・ 事故馬の発生概況について ほか
- ⑦ 第7回経営委員会（7月24日）
 - ・ 日本中央競馬会競馬施行規約の一部改正について（案）の議決
 - ・ 場外設備の変更申請について（りんくうタウン場外勝馬投票券発売所）（案）の議決
 - ・ 平成31年から33年における設備投資中期計画（案）の議決 ほか
- ⑧ 第8回経営委員会（9月4日）
 - ・ 役員の任命について（案）の同意
 - ・ 日本中央競馬会競馬施行規約の一部改正について（案）の議決 ほか
- ⑨ 第9回経営委員会（10月4日～10月10日） ※書面表決
 - ・ 日本中央競馬会外国勤務者給与規程の一部改正について（案）の議決
 - ・ ブリーダーズカップマイル競走の勝馬投票券の発売について（案）の議決
- ⑩ 第10回経営委員会（10月17日）
 - ・ 平成31事業年度事業計画（案）（「開催計画」「重賞競走の改善」に係る部分）の議決
 - ・ 12月28日の払戻金の率について（案）の議決 ほか
- ⑪ 第11回経営委員会（11月20日）
 - ・ 平成31事業年度経営目標（案）の決定
 - ・ 平成31事業年度事業計画（案）の議決
 - ・ 平成31事業年度収支予算（案）の議決
 - ・ 平成31事業年度1号給付金及び2号給付金の交付について（案）の議決 ほか
- ⑫ 第12回経営委員会（12月13日）
 - ・ 「日本中央競馬会法第8条の3第2項第6号に該当する経営委員会の議決事項について」の一部改正について（案）の議決
 - ・ 「海外競馬の競走の勝馬投票券の発売についての取扱い」の廃止について（案）の議決
 - ・ 「日本中央競馬会法第8条の3第3項に基づく経営目標の達成状況の評価について」の一部改正について（案）の議決 ほか

10. 運営審議会の概要（平成30年末現在）

日本中央競馬会法第16条の規定により、日本中央競馬会の業務の執行に関する重要事項を調査審議するため、理事長が農林水産大臣の認可を受けて任命する者により構成される運営審議会が設置されています。

（1）各委員の氏名、任期及び職名等

氏 名	任 期	職 名 等
大西 洋	2017年9月16日～2019年9月15日	日本空港ビルデング(株) 取締役副社長
大八木 信行	2017年9月16日～2019年9月15日	日本馬主協会連合会 会長
岡本 金彌	2017年9月16日～2019年9月15日	元日本中央競馬会 副理事長
川崎 麻児	2017年9月16日～2019年9月15日	日本画家
木村 貢	2017年9月16日～2019年9月15日	日高軽種馬農業協同組合 代表理事組合長
鈴木 淑子	2017年9月16日～2019年9月15日	競馬ジャーナリスト
高嶋 達佳	2017年9月16日～2019年9月15日	東京都現代美術館 館長
武 豊	2017年9月16日～2019年9月15日	日本騎手クラブ 会長
橋田 満	2017年9月16日～2019年9月15日	(一社)日本調教師会 会長
松本 好雄	2017年9月16日～2019年9月15日	中央競馬馬主相互会 会長

（2）委員の異動

なし

（3）運営審議会の開催概要

① 第1回運営審議会（3月8日）

- ・ 平成29事業年度決算（案）について

② 第2回運営審議会（7月22日） ※書面表決

- ・ 日本中央競馬会競馬施行規約の一部を改正する規約（案）について
- ・ 日本中央競馬会競馬施行規程の一部を改正する通達（案）について

③ 第3回運営審議会（8月28日） ※書面表決

- ・ 日本中央競馬会競馬施行規約及び日本中央競馬会競馬施行規程の改正について（案）

④ 第4回運営審議会（10月16日） ※書面表決

- ・ 平成 31 事業年度事業計画（案）（「競馬番組の充実」に係る部分）について

⑤ 第 5 回運営審議会（11 月 8 日）

- ・ 平成 31 事業年度事業計画（案）について
- ・ 平成 31 事業年度収支予算（案）について
- ・ 日本中央競馬会競馬施行規程の改正（案）について

1 1. 公正審査会議の概要（平成 30 年末現在）

日本中央競馬会法第 20 条の規定に基づき、馬主の登録・抹消、調教師及び騎手の免許・取消し、行政不服審査法による審査請求に対する裁決などについて意見を聴くため、理事長が学識経験者から公正審査委員を任命し、委員による公正審査会議を開催しました。

（1）各委員の氏名、任期及び経歴

氏 名	任 期	経 歴
石木 俊治	2017 年 9 月 7 日～2019 年 9 月 6 日	元 内閣法制局第四部長
石原 葵	2017 年 9 月 7 日～2019 年 9 月 6 日	元 日本中央競馬会副理事長
井上 美昭	2017 年 11 月 1 日～2019 年 9 月 6 日	元 関東管区警察局長
酒井 邦彦	2017 年 9 月 7 日～2019 年 9 月 6 日	元 広島高等検察庁検事長
酒井 啓子	2017 年 9 月 7 日～2019 年 9 月 6 日	千葉大学グローバル 関係融合研究センター長
福沢 恵子	2017 年 9 月 7 日～2019 年 9 月 6 日	(公財)日本女性学習財団理事
福地 献一	2017 年 9 月 7 日～2019 年 9 月 6 日	(株)朝日新聞社取締役

（2）委員の異動

なし

（3）公正審査会議の開催概要

① 第 1 回公正審査会議（1 月 12 日）

- ・ 馬主登録について（相続馬限定 2 件）

② 第 2 回公正審査会議（2 月 9 日）

- ・ 平成 30 年度調教師及び騎手免許について
- ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主の登録 1 件）
- ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員追加 1 件）

- ③ 書面審査（2月22日～3月6日）
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定1件）
- ④ 第3回公正審査会議（3月16日）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主の登録2件）
- ⑤ 第4回公正審査会議（4月12日）
 - ・ 平成30年第1回馬主登録審査に係る馬主登録について（49件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者死亡に伴う限定的代表者の限定解除1件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主の登録1件）
- ⑥ 第5回公正審査会議（5月18日）
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定1件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主の登録1件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員変更1件）
- ⑦ 第6回公正審査会議（6月8日）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更1件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主代表者による個人馬主の登録1件）
- ⑧ 第7回公正審査会議（7月5日）
 - ・ 平成30年第2回馬主登録審査に係る馬主登録について（46件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更2件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主代表者による個人馬主の登録1件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主の登録1件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員追加1件）
- ⑨ 書面審査（7月19日～7月27日）
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定2件）
- ⑩ 第8回公正審査会議（9月14日）
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定3件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更2件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主代表者による法人馬主の登録1件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主の登録1件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主の馬主登録取消しの猶予1件）
- ⑪ 第9回公正審査会議（10月12日）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更1件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員追加1件）

- ・ 馬主登録審査基準の改正について
- ⑫ 競馬学校視察（11 月 1 日）
- ⑬ 第 10 回公正審査会議（11 月 9 日）
 - ・ 平成 30 年第 3 回馬主登録審査に係る馬主登録について（60 件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主代表者による法人馬主の登録 1 件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主の登録 1 件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員追加 1 件）
- ⑭ 第 11 回公正審査会議（12 月 5 日）
 - ・ 平成 31 年度調教師免許（新規）について
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定 2 件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更 1 件）

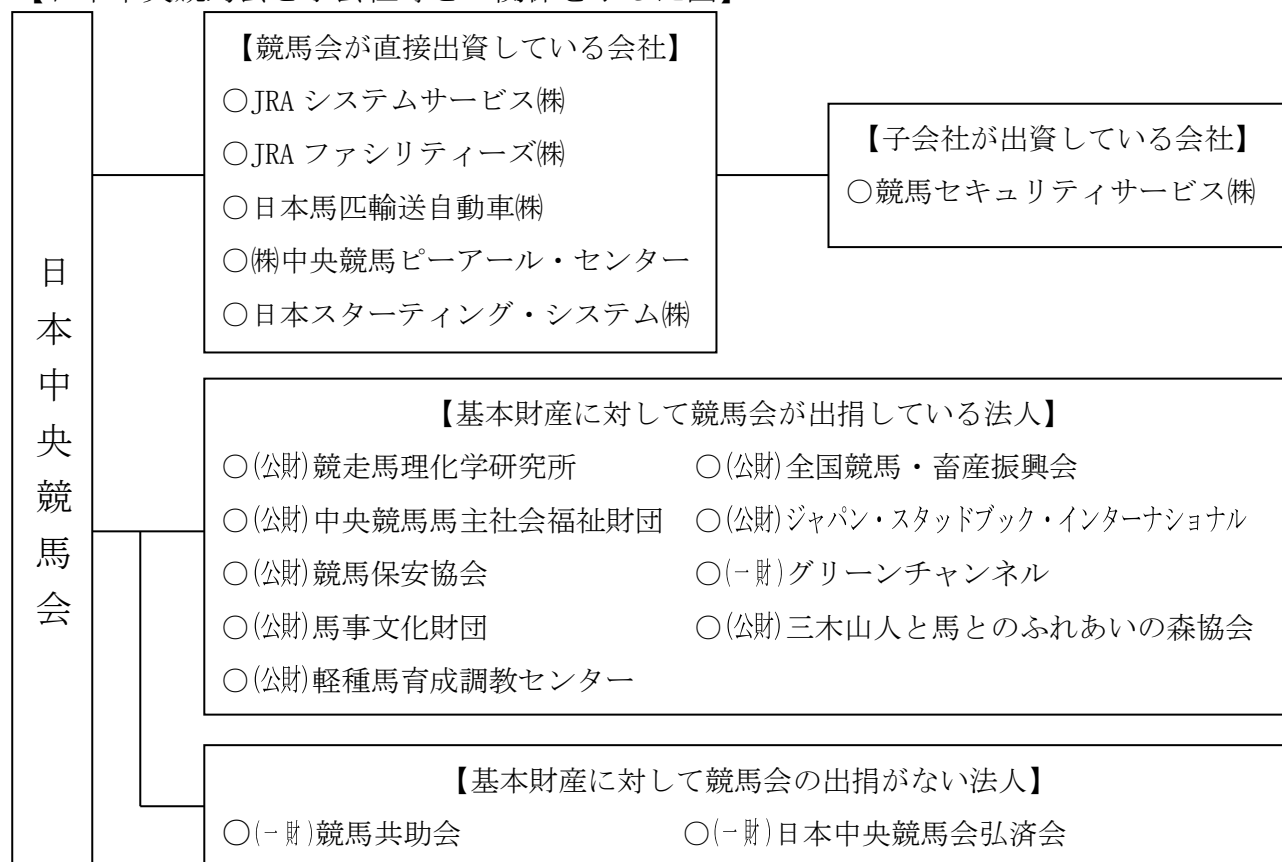
Ⅲ 子会社等に関する事項（平成 30 事業年度末現在）

1. 子会社等の状況

日本中央競馬会法施行規則（昭和 29 年農林省令第 56 号）第 10 条第 3 号に定める子会社等の状況は以下のとおりです。

- （１）子会社：ＪＲＡシステムサービス(株)、ＪＲＡファシリティーズ(株)、日本馬匹輸送自動車(株)、(株)中央競馬ピーアール・センター、日本スターティング・システム(株)、競馬セキュリティサービス(株)
- （２）関連会社：なし
- （３）関連一般社団法人等：(公財)競走馬理化学研究所、(公財)中央競馬馬主社会福祉財団、(公財)競馬保安協会、(公財)馬事文化財団、(公財)軽種馬育成調教センター、(公財)全国競馬・畜産振興会、(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル、(一財)グリーンチャンネル、(公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会、(一財)競馬共助会、(一財)日本中央競馬会弘済会

【日本中央競馬会と子会社等との関係を示した図】



2. 子会社の名称、住所、資本金、事業内容、役員数、代表者の氏名、従業員数、日本中央競馬会の所有する議決権の議決権の総数に対する割合及び日本中央競馬会との関係

子会社の名称・住所 代表者の氏名 資本金 競馬会の議決権所有割合	主な事業内容	売上高 当期純利益 利益剰余金 (H29 決算額)	役員数 (うち常勤) 従業員数	競馬会との関係 ア 売上高中の競馬会との取引額 (H29 実績) イ 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
J R Aシステムサービス㈱ 【平成 19 年 10 月設立】 東京都江東区永代 1-14-5 代表取締役社長 小林 善一郎 500,000千円 54.5% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	・トータリゼータシステム及び各種情報処理システム並びにそれらのシステムに関連する機器の運用及び保守整備 ・競馬に関する情報の提供 ・各種機器・車両及び競馬用諸設備の売買及び賃貸並びにそれらに付帯する物品の売買及び賃貸	(百万円) 18,793 576 6,935	(人) 14 (11) 518	ア 15,023百万円 イ ・トータリゼータシステム等の運用保守管理業務 ・トータリゼータシステム等のソフトウェア開発業務 ・競馬に関する情報提供システムの運用業務 ・電子計算機等のリース業務 ウ なし
J R Aファシリティーズ㈱ 【平成 19 年 10 月設立】 東京都中央区八丁堀 3-19-9 代表取締役社長 横山 清弘 300,000千円 94.9% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	・建物、馬場、造園及び各種設備の保守管理並びに関連資材の販売 ・施設等の清掃、環境衛生、防疫、廃棄物の管理及び警備 ・出走馬一覧表等各種刊行物の作製及び版下作成 ・飼糧、敷料及び添加物等の輸入並びに販売 ・損害保険代理業及び生命保険の募集等	18,960 719 9,998	13 (10) 437	ア 14,564百万円 イ ・諸施設の清掃業務 ・レーシングプログラムの作製 ・建物、設備、馬場等の設計管理業務 ・損害保険代理業務 ウ なし
日本馬匹輸送自動車㈱ 【昭和 22 年 8 月設立】 東京都港区新橋 6-20-11 代表取締役社長 小西 敏之 36,000千円 100%	・競走馬の輸送	1,959 50 1,320	5 (3) 83	ア 1,921百万円 イ ・競走馬輸送業務 ウ なし
㈱中央競馬ピーアール・センター 【昭和 53 年 10 月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 代表取締役社長 星野 年彦 20,000千円 64.3% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	・競馬及び馬文化等に関する図書及び印刷物の企画、編集、制作、出版及び販売 ・競馬及び馬文化等に関する映像業務、音声業務並びにその機器の運用、開発、販売、賃貸及び保守整備 ・競馬及び馬文化等に関する各種情報の収集及び提供	5,620 109 1,861	7 (5) 110	ア 2,830百万円 イ ・映像伝送ネットワークシステム運用保守管理業務 ・競馬実況中継放送代理業務 ウ なし
日本スターティング・システム㈱ 【昭和 40 年 9 月設立】 東京都港区西新橋 1-22-10 代表取締役社長 水野 豊香 10,000千円 100%	・発馬機及びその周辺機器等の運用並びに保守整備 ・発馬機及びその周辺機器の賃貸並びに販売 ・競走馬の発走に関する補助	1,474 119 720	6 (3) 67	ア 1,458百万円 イ ・発馬機作業及び機材輸送業務 ウ なし
競馬セキュリティサービス㈱ 【平成 4 年 11 月設立】 東京都港区西新橋 3-2-1 代表取締役社長 山川 雅典 100,000千円 0% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	・総合警備保障業務 ・労働者派遣業務	3,187 108 2,124	5 (3) 104	ア 2,886百万円 イ ・諸施設の常駐警備業務 ・競馬開催に係る警備業務、案内業務及び競馬開催補助業務 ウ なし

3. 関連一般社団法人等の名称、住所、基本財産、事業内容、役員数、代表者の氏名、職員数及び日本中央競馬会との関係

関連一般社団法人等の名称・住所 代表者の氏名 基本財産	主な事業内容	年間収入 (H29 決算額)	役員数 (うち常勤) 従業員数	競馬会との関係 ア 年間収入中の競馬会支出額 (H29 実績) イ 競馬会の業務との関係及び 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
(公財)競走馬理化学研究所 【昭和 40 年 8 月設立】 栃木県宇都宮市鶴田町 1731-2 理事長 安齊 了 1, 0 2 9, 8 9 6 千円	・競走馬に施用される薬品及び 薬剤の検査及び研究 ・騎手に施用され、又は騎手が 使用する薬品及び薬剤の検査 及び研究 ・馬の親子判定及び個体識別に 係る検査及び研究 ・農畜産物等に使用される薬品 及び薬剤等の検査及び研究	(百万円) 1, 2 6 1	(人) 6 (3) 4 4	ア 9 4 1 百万円 イ 「日本中央競馬会競馬の施行 等に関する規約」に定める競走 馬に係る薬物検出機関 ・競走馬薬物検査業務 ・薬物検査法の開発に関する研 究委託業務 ウ なし
(公財)中央競馬馬主社会福祉財団 【昭和 44 年 10 月設立】 東京都港区虎ノ門 1-2-10 理事長 畑山 光伸 5, 5 0 9, 7 1 6 千円	・社会福祉を目的とする事業に 対する助成 ・国又は地方公共団体が後援等 を行っている公益事業に対す る助成 ・中央競馬関係者の福利厚生の 向上のための事業	5 5 9	1 1 (1) 6	ア なし イ 競馬会が馬主に交付した競 馬賞金の一部を使用してその 事業を実施 ウ 理事 (非常勤) 後藤 正幸 (競馬会理事長) 理事 (非常勤) 木所 康夫 (競馬会常務理事)
(公財)競馬保安協会 【昭和 46 年 5 月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 理事長 宮本 和夫 1 0, 0 0 0 千円	・競馬の公正確保のために必要 な調査並びに情報及び資料の 収集 ・競馬の公正確保のために必要 な研究	1, 5 7 0	5 (5) 1 4 5	ア 1, 4 3 3 百万円 イ 競馬の公正確保上必要な調 査等を実施 ウ なし
(公財)馬事文化財団 【昭和 51 年 4 月設立】 神奈川県横浜市中区根岸台 1-3 理事長 小畠 薫 1, 7 5 0, 7 4 1 千円	・馬に関する文献、標本、写真、 フィルム等の博物資料 (以下 「馬事博物資料」) の収集、保 管及び展示 ・馬事博物資料に関する印刷物 の編集及び刊行 ・根岸競馬記念公苑の馬の博物 館その他施設の管理運営	6 7 5	6 (2) 2 1	ア 2 8 0 百万円 イ 根岸競馬記念公苑「馬の博物 館」、東京競馬場「J R A 競馬博 物館」及び「Gate. J」の 管理運営等を実施 ウ なし
(公財)軽種馬育成調教センター 【平成 3 年 3 月設立】 北海道浦河郡浦河町字西舎 528 理事長 大平 俊明 1, 0 0 0, 0 0 0 千円	・軽種馬の競走能力の向上等に 関する調査研究 ・育成調教技術者の養成 ・共同利用に供する育成調教施 設の運営・管理	7 6 0	6 (2) 4 1	ア 4 9 1 百万円 イ 日高育成牧場の日高育成総 合施設軽種馬育成調教場の管 理運営等を実施 ウ なし
(公財)全国競馬・畜産振興会 【平成 3 年 10 月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 会 長 齊藤 茂 1, 0 0 0, 0 0 0 千円	・競馬の健全な発展を図るため の事業に対する助成 ・畜産の振興に資するための事 業等に対する助成	1 6 6	8 (2) 9	ア 8 8 百万円 イ 競馬の健全な発展を図るた めの事業並びに畜産振興事業 等に対する助成等を実施 ウ なし

関連一般社団法人等の名称・住所 代表者の氏名 基本財産	主な事業内容	年間収入 (H29 決算額)	役員数 (うち常勤) 職員数	競馬会との関係 ア 年間収入中の競馬会支出額 (H29 実績) イ 競馬会の業務との関係及び 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
(公財)ジャパン・スタッドブック・ インターナショナル 【平成 22 年 12 月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 理事長 和田 雅雄 1, 040, 830 千円	・海外における競馬に関する情報の収集及び提供並びに我が国の競馬に関する情報の海外への提供 ・競馬の施行、競走馬の育成に関する海外の競馬関係者との技術の交流 ・軽種馬の登録及び登録証明書の発行 ・軽種馬の登録書その他関係図書の刊行	(百万円) 862	(人) 6 (3) 34	ア 468 百万円 イ 競馬会が必要とする海外における競馬に関する情報の収集・提供及び競馬会の行う馬の登録の基礎となる軽種馬の血統登録等を実施 ウ 監事（非常勤） 谷崎 潤（競馬会理事）
(一財)グリーンチャンネル 【平成 5 年 9 月設立】 東京都江東区永代 1-14-5 理事長 田村 正明 1, 000, 000 千円	・競馬及び農林水産業に関する通信衛星を利用した放送業務 ・競馬、馬事及び畜産に関する番組の制作及びその支援	3, 977	8 (3) 25	ア 69 百万円 イ 通信衛星を利用した中央競馬関連の映像情報に関する番組制作、配信等を実施 ウ なし
(公財)三木山人と馬とのふれあいの森 協会 【平成 6 年 6 月設立】 兵庫県三木市別所町高木 三木ホースランドパーク 理事長 増田 純一 200, 000 千円	・野外、体験活動等による交流事業の実施 ・馬事に関する普及啓発 ・乗馬施設等馬事に関する施設の整備及び維持管理	498	8 (1) 18	ア 185 百万円 イ 兵庫県三木市における乗馬施設等馬事に関する施設の管理運営等を実施 ウ なし
(一財)競馬共助会 【昭和 23 年 9 月設立】 東京都府中市日吉町 1-1 会 長 金田 裕之 1, 500, 000 千円	・厩舎関係者等に対する福利厚生に関する事業 ・診療所及び厚生会館の運営 ・競馬愛好者の利便に資するための厚生施設の管理・運営 ・競馬文化発展に資する事業	3, 145	7 (3) 83	ア 609 百万円 イ 中央競馬厩舎関係者の福利厚生団体 ウ 理事（非常勤） 谷崎 潤（競馬会理事）
(一財)日本中央競馬会弘済会 【昭和 39 年 12 月設立】 東京都港区六本木 6-11-1 会 長 鈴木 良治 1, 600, 000 千円	・畜産に関する調査研究及び資料の収集 ・職員の福利厚生に関する事業	158	8 (2) 5	ア なし イ 競馬会職員の福利厚生団体 ウ なし

IV 日本中央競馬会が対処すべき課題

1. 閣議決定

(1) 「特殊法人の整理合理化について」(平成 7 年 2 月 24 日閣議決定)

地方競馬との交流競走の拡大を図るとともに、通信衛星による競馬映像情報の提供、地方競馬場における中央競馬の勝馬投票券の発売等をすすめることにより、ファンサービスの改善と地方競馬への支援に努める。また、勝馬投票券の発売・払戻の自動化等により勝馬投票業務効率化に努める。

(2) 「特殊法人等整理合理化計画」(平成 13 年 12 月 19 日閣議決定)

管理経費・競走事業費の削減など更なる事業の効率化を図る。その一環として、公正確保と両立させつつ、一般競争入札等の範囲を大幅に拡大するとともに、関係会社等に対する委託費等を削減する。

(3) 「行政改革の重要方針」(平成 17 年 12 月 24 日閣議決定)

事業

【助成金交付事業】

- 当事業の透明性向上のためにこれまで講じている外部有識者委員会による助成事業の選定・評価、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律の規定の準用等に加え、助成事業の評価結果を全面的に公表する仕組みを導入する。
- 国の畜産関係補助金との役割分担を明確化する。

【中央競馬関係事業】

- 競争性のある契約のうち競馬の公正・中立性の確保上支障のない契約については、そのすべての契約を、平成 22 年までのできる限り早い時期に競争入札に移行させる。
- 子会社・関係会社の組織・事業の再編・統廃合を実施する。
- 入札結果・経営内容等の情報開示を一層進める。

【その他】

- 外部監査を導入する。

組 織

- 組織運営について、一層の効率化を図るため、次の措置を講ずる。
 - ・ 競馬の公正・中立性の確保上支障のない範囲において主務大臣の関与・規制の緩和。
 - ・ 内部組織として学識経験者等で構成される中立性を有する機関の設置。
 - ・ 当該機関による定量的な経営目標の設定及び業績評価の実施。
 - ・ 当該経営目標の公表及び当該業績評価の結果の公表。
 - ・ 経営不調時における役員解任規定導入。

2. 「特殊法人に関する行政評価・監視結果に基づく勧告（日本中央競馬会）」

（平成 14 年 1 月 18 日総務大臣から農林水産大臣へ勧告）

支出の見直しについて

（1）経費の節減等

- ア) 施設整備の抑制
- イ) 施設利用料の適正化
- ウ) 子会社等との契約の見直し
- エ) 窓口業務の自動化に伴う要員縮減の推進
- オ) 競走事業費の支出の抑制

（2）ウインズの新設の抑制と運営の効率化

（3）抽せん馬制度の見直し

3. 「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」の施行に伴う情報公開への適切な対応（平成 14 年 10 月 1 日法律施行）

この事業報告書は、日本中央競馬会法施行規則第 10 条の規定に基づき、記載しています。
なお、日本中央競馬会の事業年度は、1 月 1 日から 12 月 31 日までとなっています。

J R Aの事業活動について

(平成30事業年度)

－ J R Aは、毎週走り続けます。－

(平成30事業年度事業報告書別冊)

はじめに

平成30事業年度においてJRAは、「お客様とともに」「夢と感動とともに」「信頼とともに」「社会とともに」「そして未来へ」の5項目で構成する「経営の基本方針」に沿った事業活動を行ってまいりました。

競馬の開催においては、お客様が参加しやすい開催日程の設定に取り組み、全国10か所の競馬場において、経営の基本目標の1つである、年間288日（36開催）の競馬を着実かつ円滑に実施することができました。こうした中、史上5頭目となる牝馬3冠を達成し、その後、レコードタイムでジャパンカップを制して年度代表馬に輝いたアーモンドアイの活躍や、武豊騎手が前人未到のJRA通算4,000勝を達成するなど、多くの話題が競馬に馴染みのない方々も含めて世間に広く認知されることとなりました。また、クリストフ・ルメール騎手が215勝を挙げてJRA年間最多勝記録を更新するとともに、林満明元騎手の障害レース通算2,000回騎乗や藤沢和雄調教師のJRA通算1,400勝など、多くの記録達成に沸いた1年ともなりました。このような世界レベルかつ個性溢れる競走馬や騎手による充実した競馬を提供できたものと考えております。

お客様へのサービス面では、東京競馬場から「UMACA投票」を導入し、キャッシュレスによる投票をはじめ、WIN5や海外競馬の勝馬投票券の購入も可能となりました。平成31事業年度以降も、競馬場やウインズにおける勝馬投票の利便性及びサービスの向上を図るため、全国に順次展開していく予定です。

本報告書ではJRAが平成30事業年度に実施したこれらの事業活動を事業計画の項目毎に取りまとめました。ここに記載しました様々な施策を着実に実施したことで、お客様に「レースの迫力」「馬の美しさ」「推理の楽しみ」が一体となった競馬の魅力を実感していただき、「夢と感動」をお届けできたものと考えております。

その結果、経営の基本目標の1つである、中央競馬のお客様総数（海外競馬分を含む）は、延べ1億8,006万人余（対前年比100.3%）と、5年連続で前年を上回る結果となりました。また、勝馬投票券の発売金（海外競馬分を含む）も、2兆8,161億円余（対前年比：101.7%）と、7年連続で前年実績を上回りました。

JRAは、平成30事業年度の事業活動の結果を的確にフィードバックし、「国際的なスポーツエンターテインメント」としての競馬の更なる魅力向上、勝馬投票施策の充実、ホスピタリティの更なる向上、より一層の社会貢献活動等に努めてまいります。

<目次>

○ 平成30事業年度事業計画に掲げた項目等の実施概況

1. 魅力ある競走の提供	P 3
2. 競馬の公正確保の徹底	P 9
3. 競馬への参加促進	P 13
4. 販売促進	P 19
5. ホスピタリティの向上	P 24
6. 馬事振興	P 26
7. 社会貢献活動とCSR	P 28
8. 施設及びコンピュータ・システムの整備	P 32
9. 効率的な業務運営	P 34

平成30事業年度事業計画に掲げた項目等の実施概況

1. 魅力ある競走の提供

項目	内訳	具体的な内容
(1) 開催計画		○ 288日(36開催)の競馬開催を全国10か所の競馬場において実施。なお、積雪の影響により、第1回小倉競馬第2日(2月12日)を、台風の影響により、第4回阪神競馬第9日(9月30日)及び当該代替競馬(10月1日)を中止。それぞれ代替競馬の開催に向けて的確に対応 ○ より多くのお客様にご参加いただくため、土・日曜日以外の祝日における競馬開催を1月8日(祝・月)、2月12日(休・月)、9月17日(祝・月)及び10月8日(祝・月)に設定。また、年末の開催を12月28日(金)に設定
(2) 重賞競走の改善		
	① 3歳スプリント重賞競走の新設について	○ スプリント路線の充実を図る観点から、第3回京都競馬第11日(5月26日)に葵ステークス(新設重賞)を新設
	② 3歳春季トライアル競走の改善について	
	i) チューリップ賞のGⅡ昇格	○ 桜花賞(GⅠ)のトライアル競走として競走内容が充実しているチューリップ賞をGⅢからGⅡに昇格
	ii) 優駿牝馬(オークス)(GⅠ)及び東京優駿(日本ダービー)(GⅠ)の優先出走権	○ オークス(GⅠ)及び日本ダービー(GⅠ)の競走内容の更なる充実を図るため、トライアル競走等において優先出走権を付与する着順を変更
	iii) NHKマイルカップ(GⅠ)のトライアル競走の整備	○ NHKマイルカップ(GⅠ)の競走内容の更なる充実を図る観点から、ニュージーランドトロフィー(GⅡ)に加えて、アーリントンカップ(GⅢ)を同競走のトライアル競走とし、第3着以内馬に対して優先出走権を付与。これに伴い、アーリントンカップ(GⅢ)の実施日を移設するとともに、負担重量を馬齢重量に変更。また、地方競馬所属馬が出走できるNHKマイルカップ(GⅠ)のステップ競走を、中日スポーツ賞ファルコンステークス(GⅢ)からアーリントンカップ(GⅢ)に変更
	③ JBC競走	○ ダート競馬の祭典として、例年、地方競馬で実施しているJBC競走について、中央競馬・地方競馬を通じて実施しているダートグレード競走の魅力をより一層お客様に知っていただく契機とするため、

		第5回京都競馬第2日(11月3日)において、1日3競走を中央競馬の競走として実施。これに伴い、同週に実施していたみやこステークス(GⅢ)を休止
	④ 実施日の変更	
	i) 金鯱賞(GⅡ)の実施日の変更	○ GⅠ競走に昇格した大阪杯(GⅠ)の前哨戦として、競走内容が充実している金鯱賞(GⅡ)の実施日を、より多くのお客様にお楽しみいただくため、土曜日から日曜日に変更。これに伴い、同週のローレル競馬場賞中山牝馬ステークス(GⅢ)の実施日を、日曜日から土曜日に変更
	ii) 重賞競走の移設等に伴う実施日の変更	○ 重賞競走の移設及び3日開催の実施時期の変更等に伴い、一部重賞競走の実施日を変更
(3) 競走馬のより円滑な出走のための改善		○ 競走馬のより円滑な出走を図る観点から、6歳以上の取得賞金200万円以下の馬に対する東京競馬、中山競馬、京都競馬及び阪神競馬の平地競走における出走制限を撤廃
(4) 国内における国際競走への国内外の一流馬の参加促進		○ 高松宮記念、安田記念、宝塚記念、スプリンターズステークスに各1頭(いずれも香港)、ジャパンカップに2頭(イギリス、アイルランド各1頭)、チャンピオンズカップに1頭(アメリカ)の外国調教馬が出走 ○ 2018年の「グローバル・スプリント・チャレンジ」については、オーストラリア政府が香港から同国への馬の輸送条件を変更したことにより、2国間のスムーズな馬輸送が困難となったことから開催を休止
(5) 国際的な交流の推進		【外国の競走への中央競馬所属馬の参加実績】 ○ 外国の競走への中央競馬所属馬の出走を支援し、延べ42頭(うち1頭は競走除外)がアラブ首長国連邦、オーストラリア、韓国、フランス及び香港に遠征 ○ JRA所属馬の優勝実績(カッコ内は国名と競走馬名) ・メシドール賞(フランス、ジェニアル) ・コリアスプリント(韓国、モーニン) ・コリアカップ(韓国、ロンドンタウン) 【ワールドオールスタージョッキーズ】 ○ 海外及び地方競馬の実力や話題性のある騎手7名(アメリカ、ニュージーランド、アイルランド、フランス、ブラジル、香港、北海道各1名)を招待して第2回札幌競馬第3・4日(8月25・26日)に実施

(6) 競走馬の資質・能力の向上等への取組み	競走馬総合研究所をはじめとする関係部署においては、平成30事業年度の研究計画に沿って競走馬の保健衛生、調教管理、生産及び育成に関する研究を実施。また、その成果を活用し、診療・防疫体制の整備、事故防止及び生産育成基盤の強化等を実施
	① 競走馬の資質・能力の向上 i) 競走馬の育成を通じた取組み ○ 日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、サラブレッド市場購買馬（平成29事業年度購買の2歳馬74頭及び平成30事業年度購買の1歳馬75頭）を用いて、育成に関する研究を実施。また、日高育成牧場に繋養しているサラブレッド繁殖牝馬及びその産駒（生産馬：当歳9頭・1歳6頭・2歳5頭）（※1歳6頭のうち2頭及び2歳5頭のうち2頭は宮崎育成牧場に繋養）を用いて、生産・育成に関する研究を実施 ○ 育成研究に供した2歳馬は、4月に中山競馬場で開催したJRAブリーズアップセールにて生産馬4頭を含む68頭を、5月に札幌競馬場で開催された北海道トレーニングセールにて5頭を売却 ○ 実践的な技術指導、講習会、ホームページを通じ、生産育成研究及び技術開発によって得られた成果を普及・啓発 ii) 生産育成基盤の強化 【国内生産基盤の整備】 ○ 生産者賞の審査・交付認定を実施 ○ 生産育成技術の向上を目的として、(公社)日本軽種馬協会が実施する軽種馬経営高度化指導研修事業に協力 ○ 資質に優れた種牡馬及び繁殖牝馬群の導入や繁殖牝馬流通活性化を目的として、(公社)日本軽種馬協会が実施する優良繁殖馬導入促進事業に協力 ○ 諸団体が実施する国内セリ市場における流通促進及び東南アジア諸国への内国産馬の流通促進に協力 ○ 関係部署及び各団体で構成される「海外流通促進連絡協議会」に参加し、情報提供等のサポートを行う等、日本産馬輸出体制づくりを支援した結果、中国本土への日本産馬の輸出を引き続き実施 【生産育成に関わる人材養成】 ○ 生産育成調教技術者の養成を目的として、(公財)軽種馬育成調教センターが実施する育成調教技術者養成事業、(公社)日本軽種馬協会が実施する軽種馬生産育成技術者養成推進事業に助成 ○ 生産育成牧場への若手就業者不足の対応策として、(公社)競走馬育成協会が実施する生産育成牧場

		への就業者参入促進事業に協力
	② 競走馬の保健衛生 対策を通じた取組み	○ 競走馬総合研究所を中心として、スポーツ科学・スポーツ障害・先端獣医療・伝染病対策・生産基盤強化などに関する研究を引き続き実施。また、その成果を普及・啓発するため、学会や講演会などで発表 ○ バイオテクノロジーなどの先端技術を応用した研究として、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門との共同研究により、「馬の病原細菌における薬剤耐性機構の解析（平成30～32年）」を実施 ○ 軽種馬生産地における疾病などの諸問題を解決する調査研究として、「競走馬の生産・育成技術及び若馬の疾病に関する調査研究（平成29～33年）」を実施 ○ 外部研究機関への委託により、「低酸素トレーニングが骨格筋の乳酸代謝に及ぼす影響に関する研究（平成29～31年）」や「ウマ人工多能性幹細胞（iPS）を利用した間葉系幹細胞の作成（平成30～32年）」などの研究を実施 ○ 競馬サークルへの研究成果の普及及び学術交流を図るため、12月3日・4日に「第60回競走馬に関する調査研究発表会」を開催 ○ 生産地への研究成果の普及、生産者の研究ニーズの把握を目的とし、7月12日に「第46回生産地における軽種馬の疾病に関するシンポジウム」を開催
	③ 競走馬の事故防止 対策	○ 競走馬の事故（骨折等）を防止し、充実した競馬実施に資するため、調教施設及び馬場の保安全管理を実施 ○ 競走馬の事故発生状況を随時調査・分析するとともに、事故防止に対する意識の向上を目的として、厩舎関係者を対象とする各種研修会を開催 ○ 事故防止に関する調査研究として、競走馬総合研究所を中心に「屈腱炎の治癒評価法に関する調査研究」、「競走中・調教中に発症する重篤な疾患における薬物使用実態及び遺伝学的背景の調査研究」及び「馬場柵等付帯施設の安全性向上に関する研究」を実施
	④ 防疫体制の整備	○ 「日本中央競馬会競走馬伝染病防あつ規程」に基づく入厩検疫、定期検査及び予防接種を実施するとともに、環境衛生対策、疫学調査、ワクチン備蓄等の防疫措置を実施 ○ 家畜伝染病予防法で定められた「飼養衛生管理基準（馬）」に基づいて、本会施設内の衛生管理を実施

		○ 所轄官庁の指導に基づき、国際交流競走に参加する外国馬、及び海外遠征する日本馬の輸出入検疫に付帯する業務を実施 ○ 国際交流競走へ円滑に出走できるよう家畜衛生条件の締結や遠征環境の整備に向けて、馬の移動状況や伝染病の疫学調査についての情報を所轄官庁と共有 ○ 生産育成地における疾病蔓延防止及び本会施設内への疾病侵入阻止を目的とし、(公社)中央畜産会が実施する「馬伝染性疾病防疫推進対策事業」を通じて、本会施設入厩前の育成馬や繁殖牝馬、乗用馬等を対象とした予防接種(馬インフルエンザ、日本脳炎、破傷風、馬鼻肺炎)を推進 ○ 馬伝染性子宮炎の国内清浄化の達成を受け、(公社)日本軽種馬協会が実施する「馬伝染性子宮炎自衛防疫事業」を通じ、清浄化後の疫学監視を推進 ○ 「生産地における軽種馬の疾病に関するシンポジウム」やトレーニング・センター周辺牧場との防疫協議会を開催し、防疫体制の強化を推進 ○ 国内の防疫体制の強化を目的とし、競走馬総合研究所において、馬ピロプラズマ病診断用 IFA プレーットの作製及び抗原性の検証、ヒト用ロタウイルス簡易迅速診断キットのウマロタウイルス病診断への応用に関する研究、両トレーニング・センターの馬鼻肺炎血清疫学調査、血清学的試験を中心とした鼻疽検査法の検討、及び新しい馬インフルエンザワクチンの接種馬における抗体保有状況調査を実施 ○ 国内外の伝染病情報や飼養管理に関する情報を軽種馬防疫協議会へ提供するとともに、「馬飼養衛生管理特別対策事業」における講習会等を通じて、馬防疫思想の普及を推進
(7) 馬主活動の促進		【新規馬主開拓】 ○ 馬主活動を各種媒体でPRするとともに富裕層向け競馬観戦会を実施 【既存馬主の活動促進】 ○ GI開催競馬場において出走記念昼食会を実施 ○ 50年以上馬主登録を継続している馬主に対し、永年馬主表彰を実施 ○ 新規馬主競馬観戦会及びトレーニング・センター見学会を実施 ○ 馬主用ホームページの運用
(8) 厩舎運営の活性化		○ 各調教師からの貸付馬房数の申請受付と成績査定を行ったうえ、3月1日付で栗東トレーニング・セ

	ンターでは1,998馬房を、美浦トレーニング・センターでは1,974馬房をそれぞれ貸付け ○ 事業年度途中の調教師の勇退等に伴い、トレーニング・センターにおける定期貸付け及び臨時貸付けを適正に実施 ○ 調教助手・厩務員（調教厩務員を含む）の承認等に伴う、平成30事業年度末の状況 a) 調教助手 平成29事業年度末 1,709名 新規に承認した者 47名 (栗東15名、美浦32名) 平成30事業年度末現在 1,702名 (栗東950名、美浦752名) b) 厩務員 平成29事業年度末 683名 新規に採用された者 8名 (栗東0名、美浦8名) 平成30事業年度現在 667名 (栗東238名、美浦429名) ○ 厩舎制度の改善に向けた（一社）日本調教師会の取組みを支援
(9) 厩舎関係者の養成等	○ 騎手課程においては第34期生3名が卒業 ○ 平成30事業年度末現在の在校生徒数は21名 (内訳／35期7名・36期5名・37期9名) ○ 厩務員課程においては51名が卒業 ○ （一社）日本調教師会を実施主体とする特別振興事業（厩舎関係者海外研修事業）に対する適切な指導及び支援を実施 ○ トレーニング・センターにおける研修計画の実施及び、厩舎関係者との意見交換及び検証結果等を踏まえた次年度研修計画を策定 ○ 新規調教師免許取得者に対し、免許取得後に必要な知識を習得するための研修を実施 ○ 見習騎手の注目度を一段と高め、騎乗数の増加及び騎乗技術の向上を図るとともに、年末の中央及び地方競馬双方を盛り上げるため、中央及び地方競馬所属の見習騎手による「ヤングジョッキーズシリーズ」を実施
《参考》地方競馬との交流競走	
① 地方競馬指定交流競走	○ 地方競馬において、ダート交流重賞競走として37競走（11主催者）が実施され、全ての競走に延べ179頭の中央競馬所属馬が出走し、31競走で優勝

		○ 地方競馬における条件交流競走は158競走（13主催者）が実施され、延べ903頭の中央競馬所属馬が出走 ○ 本賞金総額の50%（九州産馬限定競走は90%）を上限として交流競走協力金を交付
	② 認定競走	○ 地方競馬において、174競走（11主催者）の認定競走を実施。なお、全ての主催者において、上位に格付けされた競走を認定競走として実施（北海道においてのみ従来の新馬・未勝利クラスの認定競走も併せて実施） ○ 本賞金総額の90%を上限として認定競走協力金を交付
	③ 中央競馬指定交流競走	○ ダート重賞17競走を中央競馬指定交流競走として実施し、そのうち9競走に地方競馬所属馬が延べ18頭出走 ○ 芝のGI競走とそのステップ競走を中央競馬指定交流競走として実施。ステップ競走には11競走に地方競馬所属馬が延べ12頭出走（GI競走に出走した地方競馬所属馬は1頭）
	④ 中央競馬特別指定交流競走	○ 認定競走の優勝馬が出走できる中央競馬特別指定交流競走には、2歳では14競走に延べ29頭、3歳では31競走に延べ37頭の地方競馬所属馬が出走

2. 競馬の公正確保の徹底

項目	内訳	具体的な内容
(1) 登録・免許業務及び制裁等の厳正な実施		○ 登録及び免許の実施状況（※国際交流競走、国際騎手招待競走及び地方競馬との指定交流競走は除く数） ◇馬主登録 平成29事業年度末 2,400名 （うち個人2,016、法人334、組合50） 新規登録 176名 （うち個人161、法人12、組合3） 登録抹消 103名 （うち個人85、法人15、組合3） 平成30事業年度末現在 2,473名 （うち個人2,092、法人331、組合50） ◇競走馬登録 平成29事業年度末 8,428頭 新規登録 5,392頭（うち再登録313頭）

	登録抹消 5,223 頭
	平成 30 事業年度末現在 8,597 頭
	◇服色登録
	平成 29 事業年度末 1,904 件
	新規登録 136 件
	登録抹消 105 件
	平成 30 事業年度末現在 1,935 件
	◇調教師免許
	平成 29 事業年度末 200 名
	免許不更新の者 12 名
	平成 30 事業年度免許者 193 名
	〔3 月 1 日付 更新 188 名、新規 5 名〕
	※その後、取消者 1 名
	平成 30 事業年度末現在 192 名
	◇騎手免許
	平成 29 事業年度末 134 名
	免許不更新の者 0 名
	平成 30 事業年度免許者 137 名
	〔3 月 1 日付 更新 134 名、新規 3 名〕
	※その後、取消者 4 名
	平成 30 事業年度末現在 133 名
	○ 外国人騎手の短期免許について、平成 30 事業年度は 10 名（延べ 16 名）に臨時試験による短期免許を交付
	○ クラブ法人への対応として、金融商品取引法関連法令に基づく登録業者の指導を監督官庁との連携のもと実施
	○ 制裁等の厳正な実施
	◇公正確保の維持
	「公正確保」は、競馬に対する社会的信用を維持するうえでの根幹となるものであることから、公正確保上の対応が必要な事案に関して調査等を実施するとともに、厩舎関係者に対し適宜指導を行うなど主催者として最大限の努力を傾注
	平成 30 事業年度については、調教師による道路交通法違反事案（酒気帯び運転）が 1 件、調教助手による偽計業務妨害事案が 1 件発生したため、調査のうえ裁定委員会を開催し、道路交通法違反事案については調教停止 6 ヶ月、偽計業務妨害事案については競馬関与停止 5 年の処分を実施
	騎手・調教師・馬主等との意見交換を経て、騎乗依頼仲介者の勝馬投票券購入の禁止等を盛り込んだ新制度を施行し、平成 30 事業年度より運用を

	開始 ◇騎手・調教師に対する制裁 競馬開催における騎手に対する制裁は、戒告・過怠金が８０５件（うち地方競馬における戒告が７件）、騎乗停止が３５件（うち地方競馬における騎乗停止が３件）。中央競馬の開催における騎乗停止処分の内訳は、進路の取り方によるものが３１件（第１着から第３着までに入線した馬に係るものが１２、その他が１９件） 競馬開催における調教師に対する制裁は、戒告・過怠金が６８件（うち地方競馬における戒告が５件） ◇研修会等の実施 競馬の公正、安全及び円滑な実施に資するため、制裁点数制による騎手の再教育（延べ２１名に対して実施）、若手騎手研修を実施 ◇騎手ドーピング検査の実施 騎手の健康保護及び競走の安全を図るため、「騎手の薬物使用に関する検査実施要綱」に基づき、騎手に対するドーピング検査（尿検体を用いた理化学検査３２件、呼気検体を用いたアルコール検査４８件）を実施
（２）薬物の不正使用事案等の未然防止及び自主警備体制の整備	○ 日本中央競馬会競馬施行規約第５８条に規定される理化学検査を適正に実施し、また、当該検査機関である（公財）競走馬理化学研究所が実施する競馬の公正確保に関連する事業に協力 ○ 競馬の公正な施行を確保するため、厩舎地区などの業務エリアにおける警備を万全な体制で実施 ○ 調教助手による偽計業務妨害事案の再発防止策として、関係各所と調整の上、トレーニング・センター及び滞在型競馬場の厩舎地区に防犯カメラを設置していく方針を決定 ○ お客様の安全確保及び場内外の秩序維持のため、自主警備を万全な体制で実施するとともに、関係機関と連携し、競馬の公正を阻害するおそれのある者の発見と排除を徹底 ○ 警備体制の策定にあたっては、「警備体制に関するガイドライン」に基づき、来場者の安全確保を前提としたうえで、効率的な配置で実施 ○ 禁止薬物に関する取組み ◇ 平成３０年３月に発生した規制薬物陽性事案について、調査を行った上で処分を決定するとともに、全調教師に対し規制薬物事案の再発防止を徹

		底 ◇ 日本中央競馬会競馬施行規程第134条に規定される理化学検査を適正に実施し、また、当該検査機関である（公財）競走馬理化学研究所が実施する競馬の公正確保に関連する事業に協力 ◇ 出走馬に禁止薬物が使用されることのないよう、厩舎関係者に対する指導・啓発等の活動を実施 ◇ 禁止薬物陽性事案が発生した際に迅速な対応をとるためには、捜査機関との密接な協力関係が必要となることから、警察関係者に対して禁止薬物に関する説明会を実施
（３）勝馬投票に関わる違法行為等の防止対策		
	① ノミ行為、違法インターネット賭事等の防止対策	○ ノミ行為・インターネット賭事等の違法行為防止対策として、これらの勝馬投票類似行為が違法であることについて、レーシングプログラムやJRAホームページ等を活用した啓発活動を実施
	② 悪質な競馬情報提供会社による被害防止対策	○ 競馬予想に関する悪質な情報を提供する会社による被害を防止するため、情報収集を継続的に実施し、特に悪質なものについては具体的な手口・内容をJRAホームページ内へ記載するとともに、競馬場・ウインズのモニター等において注意喚起を図るビデオを放映したほか、レーシングプログラム等各種媒体にお客様向けの注意喚起文を掲載し、広報・告知活動を強化
	③ 未成年者の勝馬投票券購入防止対策	○ 職員等による指導注意活動を実施するとともに、レーシングプログラム等を活用した広報・告知活動を実施
（４）審判関係業務の改善		○ お客様の競走ルールを理解を醸成するため、失格・降着の判断基準及び審議の公表に関する解説映像を引き続き開催日に放映し、ホームページ・レーシングプログラムにも競走ルール解説を掲載。また、専門職職員のテレビ・ラジオ番組への出演を通じ、お客様の審判関係業務への理解を醸成 ○ 審議等があった場合にホームページに掲載する裁決レポートについては、よりお客様に分かりやすい説明となるよう内容の充実を図るとともに、個別にパトロールビデオを公開しない事象についても、お客様の関心が高く説明が必要と思われる事象については積極的に裁決レポートを作成することとし、お客様へ情報を提供 ○ 国際協調に関しては、国際裁決委員会議及びIFHA「競走ルール（裁決事項）」の調和に関する委員

	会」に出席し、諸外国の裁決担当者と意見交換を行い、日本が取り組むべき課題について裁決担当者間で検討を行うとともに、ワールドベストレースホースランキング会議に出席し、2018年度の競走馬の世界ランキングを決定 ○ 地方競馬との協調に関しては、地方競馬全国協会と情報連絡会議を実施し、裁決業務に関する課題について協議・検討を実施
--	--

3. 競馬への参加促進

項目	内訳	具体的な内容
(1) プロモーションの展開		
	① 広告プロモーションの展開	○ 中央競馬の安定的な発展を図り、絶えず世間における競馬の認知拡大やイメージ向上、興味喚起を通じて新規のお客様の獲得と定着化を促していくため、各種メディアを通じたプロモーションを実施 ○ 年間プロモーションは、広く世間一般に向けた競馬の認知拡大やイメージアップ、興味喚起を通じて競馬への初参加を促すという従来からの目的はそのままに、特に若年層を中心とした競馬未経験層への訴求をより強めた「HOT HOLIDAYS!」を引き続き展開。具体的には、疾走感のある楽曲（木村カエラ）を背景に、ターゲットと同世代の若い競馬未経験者（松坂桃李・柳楽優弥・高畑充希・土屋太鳳）による競馬初体験の驚きや発見をユーモラスに表現したテレビCM（シーズン編2編（春及び夏）とGI告知編14編を制作・放映）を中心に、競馬が本来持つ明るさや楽しさ、気軽さ、ワクワク感を訴求するとともに、初めての競馬体験を誘引する雰囲気醸成 ○ 中央競馬へのロイヤリティ向上と参加意欲の更なる強化を図り、引き続き過去の名馬が一堂に会した架空のレース映像とともに競馬と人生の関わりを描いたブランドCM『夢の第11レース』を継続放映したほか、競走馬の美しさやレースの迫力、騎手の技術や駆け引きなどレースそのものに焦点を当てた新たなブランドCM『a beautiful race』を継続放映。また、過去の名馬の架空対決を題材にした「夢のVS」を有馬記念に向けて制作・放映

② G I 競走等のプロモーション	○ 日本ダービー及び有馬記念を中心としたG I 競走の認知拡大・参加促進を図り、春季・秋季のG I シーズンに合わせ、様々なメディアを駆使して幅広いプロモーションを展開。具体的には、春季及び秋季を中心にテレビCMを集中的に出稿したほか、全国的な一般紙を含む新聞・雑誌広告の出稿、多くの人が行き交うターミナル駅や主要交通機関での屋外広告・交通広告の掲出、競馬未経験層向けサイト「Umaabi」を活用した各種人気コンテンツとのコラボレーション企画などを実施。また、施設外の街頭でのプロモーションとして、日本ダービー、有馬記念では首都圏主要各都市（新宿、渋谷、品川、池袋、横浜、大宮等）にてイベントを開催。その他のG I 競走等でも、レースを開催する競馬場近辺の主要都市（関東・関西・中京の主要都市）を中心に街頭でのプロモーションを実施 ○ 有馬記念では、「有馬記念フェスティバル」として、出走馬関係者（馬主、調教師、騎手）が一同に会した馬番号決定の公開抽選会を開催。抽選で当選した競馬ファン500名を招待するとともに、その模様をテレビで生中継 ○ 京都競馬場で実施したJBC競走と、ホープフルステークス（年末の12月28日開催）については、競馬場への来場誘引策と連動した広告展開（ポスター、テレビCM）や一般紙での広告、街頭でのプロモーションなど認知向上と参加促進を図ったプロモーションを実施
③ 海外競馬のプロモーション	○ 各主催者と契約を締結し、発売対象レース全てをグリーンチャンネルで放送するとともに、ドバイワールドカップ及び凱旋門賞については、フジテレビ系列全国ネットでの放送を実施 ○ 発売対象レースに関して、主催者等を通じて入手した出走馬データをすみやかにマスコミに情報提供することにより、お客様への正確な情報提供を実施 ○ お客様への情報提供、注目度の向上、参加意欲の向上を図るため、発売レースの出走馬の紹介コンテンツを制作。また、実施される競馬場の紹介コンテンツを制作し、競馬場・ウインズで放映するとともにホームページに掲載 ○ 海外競馬に対するより一層の興味喚起や理解醸成を図るため、海外の美しい映像とともに海外競馬の魅力に触れる機会を拡大する番組を放送 ○ 海外競馬の勝馬投票券発売を効果的に告知し、国

		際的なスポーツエンターテインメントとしての競馬に対する興味喚起と参加促進を図るため、特に世間における関心の高いドバイワールドカップ諸競走（３月）、凱旋門賞（１０月）及び香港国際競走（１２月）について、一般紙・スポーツ紙・雑誌・WEBなどの媒体を活用し、さまざまなプロモーションを実施。また、凱旋門賞については、開催競馬場（中山・阪神）において凱旋門賞に出走する日本馬を応援するイベント等を実施
	④ 競馬未経験層向けサイト「Uma bi」等の展開	○ 競馬の認知度拡大のため、WEB・SNSを活用した競馬未経験層へのアプローチとして年間を通じて展開 ○ GI競走のプロモーションとして、日本ダービーでは人気漫画「キャプテン翼」とのコラボレーションサイト「キャプテン翼ダービー」、有馬記念では人気アニメ「機動戦士ガンダム」とのコラボレーションサイト「有馬戦士ガンダム」を公開。また、WEBだけではなく、東京競馬場・中山競馬場等でリアルイベントを実施するなど、競馬参加への橋渡しとして展開 ○ 競馬への理解を醸成し、競馬未経験層との接点創出という観点から、競馬疑似体験の実現を目指し、人気アニメ「ポプテピピック」「ゲゲゲの鬼太郎」や人気芸人「ひよっこりはん」「くっきー」、人気再燃中の「新日本プロレス」、アニメ「F a t e」など、様々なジャンルにおける人気コンテンツとのコラボレーションサイトを公開
(２) 広報活動の展開		
	① 競馬中継の安定的な提供	○ テレビ（地上波・BSデジタル）・ラジオによる競馬中継は、お客様にレース映像・情報を提供する重要な役割を果たしていることから、競馬中継を安定的に提供することや番組内容の改善について、各局との協議・連携を継続的に実施 ○ 新たに日曜日のメインレース時間帯に、BSフジによる放送を年３回実施
	② パブリシティ活動の充実	○ 競馬に関する話題性を喚起するとともに、競馬に関連した紙面の充実を図るため、マスメディアへのきめ細かなパブリシティ活動を実施したことで、一般紙においても、「武豊騎手JRA通算４０００勝」、「藤田菜七子騎手JRA女性最多勝更新」、「オジュウチョウサン有馬記念出走」など、中央競馬関連記事が多く掲載された他、ニュースやワイドショーなど放送メディアでも同様の話題が多く取り上げら

		れ、広く世の中一般に対して「競馬」並びに「中央競馬」をアピール ○ 「優駿」など各種出版物により、的確かつ時宜を得た内容の情報提供をマスコミ及びお客様向けに実施 ○ J R A 賞授賞式などの開催を通じて、競馬への理解促進やイメージ向上に貢献 ○ J R A の認知度向上や競馬に関する話題喚起を図るため、競馬初心者からコアファンまで各層を対象としたミニ番組を年間を通じて提供するとともに、春秋の G I シーズンの盛り上げや競馬界を支える人材確保を目的としたミニ番組を提供 ○ 競馬に関する話題喚起を図るため、武豊騎手の 4 0 0 0 勝を記念する特別番組や平成 3 0 年の競馬を振り返る特別番組を提供。また、G I 競走の参加促進を図るため、バラエティ番組・スポーツ番組・情報番組等でパブリシティを実施 ○ 競走馬総合研究所のホームページ、刊行物、講演会等を通じて、馬及び競馬の科学情報を発信
(3) 競馬場・ウインズ等の活性化		
	① 多様なお客様層に応じたアプローチ	○ 既存のお客様により競馬を楽しみいただくとともに競馬に馴染みのない方々にもご参加いただけるよう、多彩なお客様サービスイベント等、お客様のニーズを踏まえた以下の各種施策を実施 ◇ 全競馬場の競馬開催日において年間プロモーション「HOT HOLIDAYS！」と連動したプロモーションを展開。イベント・装飾等について統一感を持ったものにするによりスケールメリットを生かしたものとする他、プロモーションキャラクターの来場等により華やかさを醸成するとともに、競馬未経験者への競馬場来場を誘引 ◇ G I 開催週を中心に、競馬キャスターやタレント等を起用し、競馬場及びウインズにおいて各種トークショーイベントやファミリー向けキャラクターショー、馬とのふれあいイベント等を実施 ◇ 夏季競馬における参加促進を図るため、全国の競馬場・ウインズにおいて「J R A サマーシリーズキャンペーン」として、「サマーシリーズに関連するクイズ」ならびに、「シリーズ優勝騎手予想」と「サマー 2 0 0 0」「サマースプリント」「サマーマイル」の優勝馬予想も実施（応募総数 4 6, 2 2 6 件）。また、キャンペーン第 2 弾として、「ワールドオールスタージョッキーズに関連するクイズ」ならびに、「ワールドオールスタージョッキー

		ズ優勝騎手」、「優勝チーム」の予想を実施（応募総数 30,404件）。いずれも勝馬投票券の提示を必要としないオープンキャンペーン形式で実施したことから、有効応募人数が対前年比688%に増加 ◇ 8月18日（土）・19日（日）を「ウインズ・デー」として、全国のウインズ・エクセル・パークウインズにおいて、日頃からご愛顧いただいているお客様への感謝イベントを同日に統一感を持って実施（来場者数前年比は18日（土）：119.3%、19日（日）：101.5%、発売金前年比は18日（土）98.9%、19日（日）99.3%）。具体的なイベント内容は以下のとおり。 ・ JRAオリジナル扇子（18日：12.5万名分）、JRAオリジナル手ぬぐい（19日：17万名分）の先着プレゼント ・ エクセル席の半額キャンペーン（パークウインズの指定席は除く） ・ それぞれの事業所における抽選会やキャラクターショー等のお楽しみイベント ・ 食堂・売店の一部商品の割引キャンペーン ◇ 女性のお客様の獲得と定着化 全競馬場・全競馬開催日において「UMA JO スポット」を運営（計288日）したほか、外部施策として人気ファッション誌とのコラボレーションイベントなども実施 ◇ シニアのお客様の満足度向上と誘引 ・ 9月17日をシニアサンクスデーとし、競馬場・ウインズにおいてシニア向けグッズ（めがね型ルーペ1万本、手元が光るボールペン10万本）を配布 ・ ウインズ石和及びウインズ道頓堀において、70歳以上のシニア層を対象とした有料エリア（シニアゾーン）の設置を試行 ◇ 「お年賀タオル」（1月5日、22.3万枚）、「2019 JRAオリジナルカレンダー」（12月9日、39.8万部）を配布 ◇ JRAの公式プログラムとして、「レーシングプログラム」を年間通じて安定的に発行し、お客様へ有益と思われる各種情報を提供。特に注目度の高いレースである日本ダービーや有馬記念当日には特別カラー版を配布。また、海外競馬の発売、ヤングジョッキーズシリーズ開催に合わせて、カラ
--	--	---

		一の特別記事を掲載 ◇ 宝塚記念及び有馬記念において「ファン投票」を実施。有効投票件数はそれぞれ117,508件（前年比96.0%）、170,480件（同109.2%）
	② 来場のきっかけ作り	○ 有料駐車場がある9競馬場において、駐車場あいのりキャンペーンを実施するとともに、札幌競馬場・函館競馬場・福島競馬場・小倉競馬場においてパークウインズ時のイベントに絡めて駐車場料金の割引や無料券配布等を行い、グループによる来場促進及び来場車両の抑制施策を実施 ○ 来賓室等を活用し、新規のお客様や富裕層を対象とした競馬教室や競馬観戦会を実施（実施回数164回、参加人数4,812名） ○ 引き続き「競馬場来場ポイントキャンペーン」を全競馬場・全競馬開催日で実施。TVCMと連動した賞品等を設定することにより、競馬未経験層・休止層等に向けての来場促進・定着化を推進 ○ 全国の競馬場において、競走名にちなんだ各地域の物産展や競馬場所在地域の名産品店の出店、食堂・売店利用促進クーポンの配布などさまざまな「食のイベント」を開催 ○ 新規のお客様の競馬への理解醸成を図るため、年間を通じて「ターフィー&ハローキティ」を活用した以下の施策を実施 ◇ 競馬に馴染みの無い地域やお祭り会場などを中心にオリジナルアイテムも活用しながら、グリーティングイベントを実施（計75回） ◇ WEBにおいても年間を通じて専用サイト「TURFY LAND」を運用し、主に初心者向けのコンテンツを展開 ○ 競馬場入場料を無料とする「フリーパスの日」を10競馬場で計22日間設定（内10日は女性対象のフリーパスの日、1日はファミリー対象のフリーパスの日、1日は福島競馬場開設100周年を記念したフリーパスの日） ○ ウインズにおいて、地元企業とのコラボレーション（津軽、錦糸町、立川等）、地元警察署とのコラボレーション（新白河、姫路等）などを通じて、ウインズの認知度向上を推進。また、ライトウインズ等を除く34ウインズにおいて、オリジナルご当地ターフィーを製作し、オリジナルグッズやイベント時の広報で活用するなど、ウインズの認知度向上を推進

	③ 福島競馬場開設100周年事業	○ 福島競馬場開設100周年記念イベントとしてアンバサダーを設定するなど、例年より充実したイベントやプロモーションを実施
--	------------------	--

4. 販売促進

項目	内訳	具体的な内容
(1) キャッシュレス投票システムの導入		
	① キャッシュレス発売機の導入	○ 専用ICカード「JRA-UMACA」を用いることによって「現金レス」「馬券レス」でこれまで以上に便利に勝馬投票をご購入いただけるキャッシュレス投票システム「UMACA投票」を、東京競馬場（9月）、福島競馬場（10月）、中京競馬場・阪神競馬場・ウインズ銀座・ウインズ難波・ウインズ神戸（11月）の計7事業所に導入 ○ これまで現金投票の発売窓口ではご購入いただけなかったWIN5及び海外競馬の発売も実施（JRA-UMACA登録会員数45,187名）
	② 情報照会機の導入	○ UMACA投票の導入と併せて、新たに情報照会端末機「UMAポート」（ウマポート）を設置し、オッズプリントサービスのほか、JRA-UMACAを活用したクーポン発券等のサービスを実施
(2) 払戻金施策の実施		
	① 払戻金上乘せ施策の実施	○ 1号給付金（JRAプレミアム）については、馬連を対象とした「金杯馬連（1月6日）」、「春の3歳重賞馬連（1月7日～5月26日）」、「ダービーデー馬連（5月27日の全レース）」、「有馬記念ウィーク馬連（12月22日・23日の全レース）」、単勝を対象とした「2歳単勝（6月2日～12月16日・12月28日）」として、それぞれ対象投票法の売上の5%相当額の上乗せを計707競走で実施 (上乗せ総額 3,078,455,120円) ○ 通常の払戻金が100円元返しとなる場合に10円を上乗せして110円で払戻する「JRAプラス10」を、海外競馬を含む「全ての競走の全ての投票法」に対して実施 (687件 上乗せ総額 3,371,109,300円)
	② 払戻率の設定	○ 現行の払戻率（単勝80%、複勝80%、枠連77.5%、馬連77.5%、ワイド77.5%、馬単75%、3連複75%、3連単72.5%、WIN5 70%）設定以降のお客様の購買動向等を分析し、現在の率の継続を決定 ○ 弾力的な払戻率の設定の更なる活用施策として、

		12月28日（第5回中山競馬第9日及び第5回阪神競馬第9日）において、全ての競走、全ての投票法を対象に、払戻率を80%に設定する「JRAスーパープレミアム」を実施
（３）電話・インターネット投票会員の加入促進及び離脱防止		JRAのみならず地方競馬、海外競馬のインターネット投票を安定的に実施し、また、「インターネット」にて購入できること等を広報、宣伝することで即PATを中心にインターネット投票会員の加入促進を推進 ◇ 即PAT会員及びJRAダイレクト会員の新規登録を随時実施 ・即PAT新規登録会員数 465,111名 ・JRAダイレクト新規登録会員数 41,264名 ◇ A-PATの新規会員募集を2ヶ月毎に年間6回実施 ・A-PAT会員新規登録者数 3,725名 また、電話・インターネット投票に関する様々な問合せに的確にお答えするため、PATサービスセンター、JRAホームページを中心とした案内を年間通じて安定的に実施
	① 提携金融機関の追加等による加入促進	○ 即PATの新規金融機関として9月7日から「じぶん銀行」を追加し、12月末までの追加登録は32,228名。また、じぶん銀行の即PAT銀行追加に併せて、「新規登録キャンペーン（9月7日～10月8日）」を実施したことに伴い、期間中の即PAT新規登録は43,838名
	② サポート体制の充実	○ 電話・インターネット投票に関する様々な問合せに的確にお答えするため、PATサービスセンターにおける電話応対を中心に、JRAホームページにおけるFAQの充実を図ることで継続、安定的に案内を実施。また、対面式での問合せ対応充実のため、「電話・インターネット投票サポートデスク」を通年でウインズ梅田、ウインズ後樂園に、臨時サポートデスクを札幌競馬場、福島競馬場、ウインズ種市、ウインズ米子等に設置し、更には、新たな取組みとして、高知競馬場、金沢競馬場、J-PLACE伊勢崎等の地方競馬施設において既存会員対応のみならず、新規会員登録受付を併せて実施 ○ 増加傾向にある競馬場、ウインズ等でのインターネット投票に関する質問、問合せ等に職員、スタッフ等がスムーズに対応できるよう、必要な情報を開催単位で事業所へ適宜提供 ○ 従来から実施している「新ブラウザ対応」「OSバージョンアップ対応」等についても、日々、変更情

		報の収集に努め、可能な限りタイムリーに対応することを心掛け、既存投票環境の安定化を推進 ○ 電話・インターネット投票会員専用サイトである「C l u b J R A - N e t」をキャンペーンの登録窓口と一本化することで、「C l u b J R A - N e t」の登録者数の増加を推進
	③ 電話・インターネット投票会員向けサービスの充実	○ 会員に対するフォローアップサービスの充実を図るとともに、電話・インターネット投票の利用促進を図るため、年間を通じて各種キャンペーンを実施 ◇ 各種キャンペーン 発売金及び参加率向上策として、電話・インターネット投票会員向けキャンペーンを以下のとおり実施 ・ 英雄たちの軌跡は続く！C l u b J R A - N e t キャンペーン（3～4月） ・ 頂点を懸けた大決戦 日本ダービーキャンペーン（5月） ・ ODDS MASTERS GRANDPRIX NEXT HEROES 新世代の英雄たち（6～7月） ・ いざ弾け飛べ！夏の2歳単勝キャンペーン！（6～9月） ・ 世界の舞台で覚醒せよ！ワールドオールスタージョッキーズキャンペーン（8月） ・ 即PAT新規加入キャンペーン（9～10月） ・ 伝説は、疾走し続ける！C l u b J R A - N e t キャンペーン（9～10月） ・ 名馬が織りなす最高峰のドラマ 凱旋門賞キャンペーン（10月） ・ 武豊騎手JRA4,000勝達成記念キャンペーン（10月） ・ オッズ・マスターズ・グランプリ2018 -週刊！オッズ・マスターズ -（10～12月） ・ 平成最後のグランプリ 有馬記念キャンペーン（12月） また、オッズ・マスターズ・グランプリを除く全てのキャンペーンを「C l u b J R A - N e t」からのエントリーとして、「C l u b J R A - N e t」の会員数増加を推進 ◇ 会員向けの情報発信 年間通じて電話・インターネット投票会員専用サイト「C l u b J R A - N e t」会員向けのメール（C l u b J R A - N e t メール）を送信（年

		間送信回数 460 回、会員数 約 183 万名) また、特定の条件を満たした電話・インターネット投票会員（約 1 1 1 万名）に対し、「J R A からののお知らせ」「平成 3 1 年レーシングスケジュール」等を 1 2 月に送付し、年末年始、平成 3 1 年の J R A への参加促進策を実施
	④ 電話・インターネット投票の利便性の向上	○ 高齢者等のお客様にとって、より勝馬投票券を購入しやすいツール等の導入に向け、また、P A T サービスセンターにおける A I 技術を利用した会員対応の調査研究実施に向け、年間を通じて A I、I V R の技術動向、他社導入事例等の調査、情報収集を実施
(4) 販売ネットワークの拡充策の実施		○ 3 月 1 7 日から J - P L A C E 種市（岩手県競馬組合）、1 0 月 1 3 日から J - P L A C E 観音寺（兵庫県競馬組合）及び J - P L A C E 三刀屋（㈱日本レーシングサービス）での発売を開始し、地方競馬施設を活用した委託場外は平成 2 9 事業年度末比 3 か所増となる 5 3 ヶ所まで拡大。なお、J - P L A C E 種市については、本会直営の旧ウインズ種市からの運用変更 ○ ライトウインズ阿見に続く小規模発売店舗として、9 月 2 2 日にライトウインズりんくうタウンを開設 ○ 小規模発売店舗や従来の施設形態に捉われない場外発売施設の出店を目指し、地方自治体や商業施設所有者等との意見交換や現地調査を実施
(5) お客様への情報提供の充実		
	① レース映像の充実	○ より分かりやすく迫力ある映像を提供することにより、お客様サービスを維持向上するため、G I 競走当日を中心とした特定の日において、スーパースローカメラ、ヴァーチャルカメラ、車載カメラ等の特殊カメラを増設。また、京都競馬場で実施された J B C 競走ではドローンカメラ撮影による映像を提供 ○ お客様に対し、より鮮明で迫力あるレース映像提供の維持向上を図るため、映像ディスプレイ装置の更新を実施（福島競馬場・函館競馬場（制御機器のみ）、東京競馬場、ウインズ石和）
	② J R A ホームページの充実	○ J R A ホームページには、1 年間で約 8 0 . 7 億ページビュー（延べアクセス数。以下「P V」）のアクセス。その内訳はパソコン版が約 4 5 . 5 億 P V、スマートフォン版（以下「スマホ版」）が約 3 1 . 3 億 P V、携帯版が約 3 . 9 億 P V。1 日あたりの最大

	アクセス数は有馬記念当日の約8,995万PV（パソコン版：4,849万PV、スマホ版：約3,885万PV、携帯版：261万PV） 【競馬情報サービスの充実】 ○ 天皇賞（秋）、JBC3競走及び2歳GI競走について、予想の参考となる情報を掲載した特設サイトを開設するとともに、武豊騎手4,000勝サイトやヤングジョッキーズシリーズファイナルラウンドについて、特設サイトを開設 ○ 発売を行った海外競馬各レースについて、レースの概要、前哨戦レース映像、出走馬情報及び現地情報など、お客様の予想に役立つコンテンツを掲載 【機能改善及び新規項目の追加】 ○ 12月からパソコン版ホームページトップに開催競馬場の開催概況を表示 ○ 出馬表・オッズ表示にウェブアクセシビリティ対応を実施 【ユーザビリティの向上】 ○ 日高育成牧場・宮崎育成牧場・競走馬総合研究所・FAQページについて、パソコン及びスマートフォンどちらのデバイスでも外観や操作方法が最適化するレスポンス対応を実施 ○ JRAホームページトップページに「JRA-UMACA」会員募集記事リンク及び導入スケジュールを掲載するとともに「インフォメーション」に掲載の「はじめての方へ」内コンテンツとして、新たに「JRA-UMACA」「UMAポート」「8次端末における現金投票・UMACA投票」を追加。また、スマホ向けトップ画面に「スマッピー投票」ダイレクトアイコンを掲載 【SNS（ソーシャルネットワークサービス）を利用した展開】 ○ 競馬の話題喚起及び拡散を目的に、JRA公式Facebookページで競馬やイベント等に関する話題の投稿を実施 (平成30年末のフォロワー数：約19万) ○ YouTubeのJRAチャンネルにおいて、レース映像やテレビCM等の様々なジャンルの動画を掲載 (平成30年の動画再生回数 約2,174万回) ○ 女性・若年層向けアプローチとして、インスタグラムを11月から開始し、競馬未経験層がJRAへポジティブイメージを持っていただけるような内容を掲載
--	---

		(平成30年末のフォロワー数 約1.5万人)
(6) その他販売促進施策の展開		【スマッピー投票（QRコードを用いた投票）】 ○ QRコードを用いて「マークカードレス」での便利でスマートな勝馬投票券の購入を可能とする「スマッピー投票」を4月に東京競馬場に導入。平成30年末までにUMACA投票または8次現金端末機導入の9事業所に導入 【新型現金投票端末機の導入】 ○ スマッピー投票や「タッチパネル投票」に対応する新たな自動発売機「8次現金端末機」を平成29事業年度に設置した東京競馬場に加えて、京都競馬場、ウインズ汐留にも導入 【ブース販売の実施】 ○ コンピュータが馬番号・組番号を選択する「クイックピック投票」を活用し、おみくじ感覚でお客様に馬券を購入していただく「ブース販売」を計22の事業所で延べ150日実施し、新規・ライトファン層を中心とするお客様に勝馬投票の体験を提供 【JRAパーティーキャンペーンの実施】 ○ 結婚式などに参加される勝馬投票券の購入機会がない方に気軽に競馬を体験していただく取組みとして「JRAウエディング」を春季と秋季に実施 (実施件数50件)

5. ホスピタリティの向上

項目	内訳	具体的な内容
(1) 案内体制の充実		
	① 接客スタッフのスキルアップとインフォメーション機能等の充実	○ 接客スタッフの意識向上を図るための研修プログラムを策定し、全競馬場・ウインズにおいて順次展開。また、お客様のニーズに即応したきめ細やかな案内を行えるように、フロアに案内係を配置するなどの案内体制の整備を実施 ○ 総合インフォメーションでは、お客様からの様々なご質問やご要望にお答えできるよう、担当者のスキル向上に努めるとともに、正確且つ迅速なご案内を行うため、タブレットの活用や館内連絡体制の整備を実施
	② ビギナーズセミナー及び競馬教室の実施	○ 開催競馬場を中心に、競馬ビギナーの方やより競馬を深く知りたい方を対象としたビギナーズセミナー及び競馬教室を実施（延実施日数309日、参加人員27,900名）

		○ 開催競馬場において、初心者の方に対して馬券の種類やマークカードの記入方法等を案内するビギナーズカウンターを通年で設置（延実施日数270日、参加人員40,979名）
	③ 訪日外国人の増加等への対応	○ 訪日及び在日外国人に日本の競馬を認知してもらうことを目的に、訪日旅行情報サイトやSNS上に中央競馬の体験動画や記事を紹介するとともに、秋の東京競馬開催期間中には、訪日外国人の宿泊先ホテルに設置されている携帯端末を活用し、同競馬開催の告知を配信 ○ 外国人来場者向けサービスとして、継続施策である通訳案内サービス対応のタブレット端末を東京・中山競馬場及びウインズ新宿・京都に配備するとともに、全事業所のインフォメーションには英語版レーシングプログラムやHow to Bet等の案内リーフレットを設置。また、英語版基本マークカード（緑色）を製作し、東京競馬場の一部来賓エリアにおいて試行運用を実施 ○ 日本競馬の認知度を高めることを目的に、GI競走を中心としたレース映像を海外に配信するとともに、出馬表、過去成績等のデータを提供。また、外国語ホームページ（英・仏・中・韓）において、競馬場・ウインズの案内や競馬の楽しみ方等を掲載し、英語版ホームページでは更に、GI競走を中心とした出走馬情報やデータ等の日本の競馬に関する情報を提供 ○ フランス（5月）及びイギリス（7月）の競馬場において、G1競走当日に現地競馬主催者、在外公館及び日本企業・団体の協力を得て、日本食や日本文化の紹介と併せた日本競馬のプロモーション「Saddle up for Japan」を実施
	(2) 観戦環境等の向上	○ 分煙化について、競馬場及びウインズに来場されるお客様の健康及び安全確保の観点から、引き続き推進。具体的には、東京競馬場の屋外エリア（日本庭園、正門前広場・メモリアルスタンド(北側)、ローズガーデン）及びフジビュースタンド3階・6階下見所側テラスエリアの原則禁煙化するとともに、阪神競馬場、中京競馬場においても屋外喫煙エリアの一部を閉鎖・分煙化するなどの見直しを実施。また、分煙化の拡大に伴い、お客様向けの分煙告知ビデオをターフビジョン・ITVにて放映するなど、広報・告知活動を実施 ○ 快適な観戦環境の整備に向けて、競馬場及びウイ

	ンズにおける施設内の環境美化を推進するため、クリーンキャンペーンを実施 ○ 競馬場において、混雑が著しい大レース当日の椅子等の借り上げや華やかな場内装飾による滞留環境の改善を推進 ○ お客様エリアにおける空調・照明の運用について基準を設けて滞留環境の改善を実施 ○ ウインズにおいて、より多くのお客様の着席を推進するため、一部の多連の椅子からシングル椅子への更新を順次実施 ○ 各ウインズのエクセルシートの利用を促進するため、特別料金の設定やイベント催事での景品提供を積極的に展開 ○ 競馬場・ウインズ等に来場するお客様の購買動向等を調査するとともに、お客様のニーズを把握するための「顧客満足度調査」を実施して各種施策に反映
--	---

6. 馬事振興

項目	内訳	具体的な内容
(1) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への協力		○ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の馬術競技会場となるJRA馬事公苑の全面的な整備工事を進めるとともに、(公財)東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と「東京2020オフィシャルコントリビューター契約」を締結し、前述の整備工事に加え、会場整備に係る財政支援及び馬術競技の円滑な運営に協力
(2) 乗馬の普及		○ 各事業所において、一般市民やスポーツ少年団を対象とする乗馬指導、初心者を対象とする乗馬教室を開催 ○ 馬と直接触れ合う機会を拡充するため、全国の事業所において、「馬に親しむ日」をはじめとする馬事イベントを開催 ○ 各競馬場において、「体験乗馬・馬車」「誘導馬によるお出迎え・お見送り」「ポニーとのふれあい」等を実施 ○ 乗馬人口の拡大を図るため、(公社)全国乗馬倶楽部振興協会、(公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会が実施する乗馬普及事業に対して助成
(3) 引退競走馬のセカンドキャリアの促進支援		○ 引退競走馬に関する諸課題への取組みとして、競馬サークル関係者による「引退競走馬に関する検討

	委員会」(平成29年12月発足)を4回開催 ○ J R A馬事公苑(宇都宮)等で引退競走馬を乗用馬等へ転用するための調教(リトレーニング)方法の研究を実施 ○ 障害者乗馬やホースセラピーを実施する各団体の活動を支援
(4) 馬術の振興	○ 本会主催大会として、内国産馬限定の「ジャパンブリーディングホースショー」を開催 ○ J R A馬事公苑(世田谷)が使用できないことに伴い、「関東高等学校馬術選手権大会」や「日本乗馬少年団連盟馬術選手権大会」等多くの競技会に東京競馬場を貸与するとともに、大会主催者や大学等馬術部の費用負担増に対する補助を実施 ○ 本会事業所周辺の高校や大学の馬術部及び乗馬クラブに対して、技術指導を実施 ○ 馬を取扱う担当職員の技術向上を目的として、J R A馬事公苑の馬術系総合職員による乗馬技術や競走馬の再調教技術に関する各種講習会を実施 ○ 競馬関係者の馬への理解や取扱技術の向上を図るため、馬術系総合職員による講習会を両トレーニング・センターで実施 ○ 日本の馬術の振興を図るため、(公社)日本馬術連盟が実施する馬術振興事業に対して助成
(5) 馬事文化の発展への寄与	○ 馬の博物館では、馬と人との交流によって生まれた様々な文物を常設展示し、特別展として「天野喜孝展 天馬」「猪熊弦一郎展 馬と女性たち」を開催。また、継続イベントとして、定期的に馬とのふれあいイベントである「乗馬デー」「にんじんタイム」を実施したほか「馬にちなんだ立版古を作ろう」「馬の折り紙体験」などの馬に関するワークショップを開催。更に在来馬保護チャリティーを各競馬場で実施 ○ 競馬博物館では、秋季特別展としてガイドツアー付きの「メジロ牧場の歴史～“白と緑”の蹄跡」、「武豊騎手 J R A通算4,000勝達成記念展」を開催。また、館内を大幅リニューアルし4面マルチ体感シアターなどを設置したほか、お子様向けのイベントとして「乗馬服試着記念撮影会」「馬をえがいてみよう」等の馬に関するワークショップや馬の博物館と連動した「天野喜孝展 天馬」を開催 ○ 「G a t e J.」(新橋・梅田)では、「G Iレース展望」「草野仁G a t e J.プラス(グリーンチャンネル公開収録)」などを実施

	○ J R A 賞馬事文化賞の選考にあたっては、書籍・映像・展覧会をはじめ幅広い分野から馬事文化に関わる作品等、約 3 6 0 点を対象に候補作品を絞り、2 度の選考委員会で審議を重ねた結果、『競馬と鉄道あの“競馬場駅”は、こうしてできた』（著者：矢野吉彦氏）を馬事文化賞に選出。また、競馬解説を通じて永年にわたり馬事文化の発展・振興に功績のある原良馬氏に功労賞の授与を決定 ○ 馬事文化の発展に寄与するため、宮崎育成牧場等において、各地に伝承されている伝統馬事芸能を披露 ○ 日本在来馬の保存を目的として、(公社)日本馬事協会が行う日本在来馬 8 種の保存活用推進事業に対して助成
(6) 次世代育成	○ 獣医系・畜産系学生を対象とした研修として、競走馬総合研究所における「馬臨床サマースクール」や日高育成牧場における「サマーセミナー」・「スプリングキャンプ」を実施 ○ 幼少期から馬への理解を深め、生き物を通じた豊かな人間性の形成に寄与するよう、事業所から実馬を派遣し「小学校出張授業」を実施 ○ 乗馬に取り組む子供たちの目標となる大会として、全国ポニー競馬選手権「第 1 0 回ジョッキーベイビーズ」を実施（全国 8 地区の代表決定戦で 8 名の選手を選出し、決勝大会を 1 0 月 7 日に東京競馬場で実施）

7. 社会貢献活動と C S R

項目	内訳	具体的な内容
(1) 社会貢献活動への取り組み		
	① 地域社会との連携・協調	○ 関係法令に則り、事業所毎に各防災計画・マニュアルの整備及び職員他関係者への周知を徹底し、関係者の防災意識の向上を促進 ○ 大規模災害発生時の対策として、競馬場においては有事に備えて帰宅困難となった来場者及び周辺住民の避難を想定し、防災備蓄品を適切に配備・管理。また、都市部ウインズにおいても、来場者が帰宅困難となった場合を想定し、防災備蓄品を適切に配備・管理 ○ 「くらやみ祭り（5 月 3 日 大國魂神社）」等、地域の祭りや本部・事業所周辺の団体が主催する多くの

		催しに、人馬を派遣するなどの協力を実施 ○ 事業所周辺の幼稚園や保育園において、ポニーとのふれあい活動を展開するなど、「馬」を活用した地域密着型の協力を実施
	② 事業所周辺の環境保全、整備に関する取組み	○ 競馬開催日の交通対策として、周辺環境に配慮し来場車両を抑制するため、お客様に公共交通機関の利用の呼びかけを実施 ○ 周辺道路の混雑及び渋滞の要因ともなる違法駐車を排除するため、警備ポストを配置するなどの対策を実施 ○ 競馬場・ウインズ等が所在する合計38の地方自治体に対して、道路・交通安全施設整備事業、教育・社会福祉施設整備事業、公園整備事業等の合計340事業に、総額53.8億円の環境整備事業費を交付し、事業所周辺の環境整備事業を実施
	③ 畜産振興事業	○ 3月に農林水産大臣の認可を得て、交付金を交付（別表12）
(2) CSRへの取組み		
	① 環境への取組み	
	i) リサイクルに関する取組み	○ 平成20事業年度より排出物対策の柱として取り組んでいる「RAP90」（リサイクル・アクション・プログラム・90：排出物のリサイクル率を90%以上とすることを目標とした取組み）に基づき、排出物の個別項目毎のリサイクル率の向上を目指した取組みを実施 ○ なかでも競馬開催に関する排出物は、平成27事業年度よりリサイクル率の目標を50%に設定 ○ この結果、平成30事業年度のリサイクル率は、全体：93.0%（前年93.5%）、競馬開催に関する排出物：55.1%（前年54.6%） ○ 両トレーニング・センターの事業運営の安定化及び環境対応に資する目的で、使用済敷料の新たな処理法として「バイオマス発電システム」を導入 栗東：平成28年1月着工 平成31年9月竣工予定 美浦：平成30年9月着工 平成35年6月竣工予定
	ii) 温室効果ガス排出対策に関する取組み	○ 各事業所のエネルギー使用量を基にCO₂の排出量を算定し把握するとともに、その排出抑制を目的に策定した「総量削減」と「原単位削減」の複合目標を達成するために、全事業所において省エネルギー推進体制を構築 ○ 電力需要が高い夏季及び冬季においては、別途「省

		エネ対策」を作成し、関係団体を含む全事業所において重点的に取組みを実施 ○ 平成30事業年度のCO₂総排出量は97,358 t-CO₂/年（対前年比99.9%）、原単位は0.0244 kl/m²（対前年比104.4%） ○ 競馬学校、東京競馬場及び中山競馬場において、温室効果ガス排出抑制効果が高く、電力の効率化に資する「太陽光発電システム」を運用中
	② 情報セキュリティの確保	○ 情報セキュリティ委員会を開催し、情報セキュリティの現状とセキュリティ体制の整備の現状及び今後の方針について確認 ○ 情報セキュリティリテラシーの向上を図るため、全役職員を対象にeラーニングによる教育及び自己点検を実施したほか、新規採用者、新任管理者及び監督者を対象に集合研修を実施 ○ 情報漏えいリスクを低減することを目的として、全役職員を対象に標的型攻撃メール訓練を実施 ○ 情報セキュリティ点検として、外部機関によるマネジメント監査及びペネトレーションテストを実施 ○ 競馬開催に関連する各システムにおいて、ファイアウォール（FW）等のセキュリティ機器を適切に運用し、不正アクセスや情報漏えい等の起こらないセキュリティ体制を維持
	③ 法令遵守と透明性の確保	
	i) コンプライアンスに関すること	○ コンプライアンス体制の一層の充実を図るため、役職員が日々守るべき基本的な行動基準を具体化した「コンプライアンス行動指針」の周知徹底に努め、その実践を推進 ○ 役職員に対し継続的にコンプライアンスに関する研修を実施するとともに、コンプライアンス監査・アンケート等によりコンプライアンス体制の現況について確認、点検し、適宜必要な見直しを実施
	ii) 個人情報、法人文書等の管理に関すること	○ 各種関係法令・規程等に基づき、個人情報及び法人文書等の厳正な保護・管理を実施するとともに、各種研修・会議において啓発活動を実施、またコンプライアンス監査等を通じ管理体制を強化
	iii) 情報公開に関すること	○ 「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」に基づく開示請求はなし ○ 「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づく開示請求はなし ○ 引き続き、「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」の規定に基づき、JRAの経営内容等が記載された文書をJRAホームページ等を活用

		して公開
	iv) 契約・入札等に関すること	○ 契約・入札の適正化に向けた不断の点検を行い、契約の一層の競争性・公正性の向上を推進 ○ 契約手続の透明性を確保するため、工事、物品の製造・購入、役務等の入札及び契約に関する情報等について、J R Aホームページに随時公開
	(3) ギャンブル障害への対応	○ J R Aホームページ、ポスター、CM、新聞広告、レーシングプログラム及び勝馬投票券発売機等における注意喚起文の掲載やリーフレット等における知識の普及啓発を継続的に実施 ○ J R Aインフォメーションデスクにおいてお客様への相談対応を実施。また、中央競馬・公営競技のお客様及びそのご家族のご相談を一元的・専門的に受け付ける相談窓口として「公営競技ギャンブル依存症カウンセリングセンター」を4月に開設 ○ お客様及びそのご家族からの申請により競馬場・ウインズへの入場を制限する制度及びネット投票の利用を停止する制度を実施（家族申請による入場制限は10月から実施） ○ 競馬場やウインズにおいてポスターやレーシングプログラム等による広報を実施し、ホームページにおいても関係セクションと綿密に連携しながら、適切な情報提供及び案内を実施 ○ 相談窓口において一元的な相談対応を推進（電話214件、メール28件）
	(4) 国際協調・国際協力を通じた競馬発展への取組み	○ 国際競馬統括機関連盟（I F H A）執行協議会において、常任理事国として種々の世界規模の課題について各国・地域代表者と討議し、有効な方策の検討や各国・地域間の意見を調整。I F H Aの各諮問委員会には日本からそれぞれ委員を派遣し、競馬の国際協調及び発展に向けての各専門分野における協議にも積極的に参画 ○ 4回開催されたアジア競馬連盟（A R F）執行協議会において、A R F 副会長国として国際間における課題解決への取組みを推進。特に薬物規制の強化、ワールドランキングにおける質的管理、海外違法賭事の取り締まり、馬の国際間移動の促進などに向けて実効性を伴う施策を検討。また、5月に韓国で開催された第37回アジア競馬会議ソウル大会に、大会組織委員会及びA R F 事務局との連携による運営面のチェックや大会プログラムの構成、各会議セッションのテーマや発表者の選定に積極的に参画 ○ 日本の競馬産業全般を学習するためのA R F 定期

	研修（５月～６月）に８カ国８名が参加。また、競馬に関する専門的技術等を習得するためのＡＲＦ専門研修（６月）に３カ国３名が参加 ○ 年間を通じて中国国内の馬産業及び競馬事情の調査を実施。また、馬産業関係者に対する日本への研修を計３回１１名に実施（８月・９月・１１月）。また、日本人講師による現地技術指導を行い（１０月）、日中間の人材交流を推進 ○ 諸外国との交流の一環として、アメリカ、カナダ、イギリス、アイルランド、ドイツ、アルゼンチン、ブラジル、ニュージーランド、オーストラリア、韓国、香港及びサウジアラビアとの交換競走を実施 ○ アジアウィーク（マレーシア、シンガポール、タイ、インド、フィリピン及びマカオとの交換競走）を７月に中京競馬場において実施
--	---

8. 施設及びコンピュータ・システムの整備

項目	内訳	具体的な内容
（１）お客様関連施設の改善及び整備		
	① 中山競馬場スタンド等整備工事	○ スタンドを継続的に使用するための設備のリフレッシュ及びお客様サービスの向上に資するため、第１期工事を平成２９年１２月に着工、平成３１年３月に竣工予定。第２期工事を平成３０年１１月に着工、平成３３年１１月に竣工予定
	② ウインズ札幌Ａ館改築工事	○ ウインズ札幌を１館１棟に集約し、事業運営の効率化を図るとともにお客様の満足度向上と新規のお客様の獲得を目指して実施。平成２９年７月に着工、平成３３年春に竣工予定
	③ その他	○ お客様の利便性の向上のため、競馬場・ウインズ等の館内諸施設の改善（エスカレーター、トイレ整備等）のための工事を実施 ○ 快適な空調環境を提供するため、老朽化した阪神競馬場のスタンド空調用冷温水発生機を更新 ○ ファミリー層を中心に幅広いお客様の来場を促進するため、札幌競馬場の馬場内地区の諸施設及び福島競馬場の馬場内遊具を整備 ○ エクセル博多に立寄り型有料エリア（スマートエリア）を開設
（２）競走関連施設の改善及び整備		【美浦トレーニング・センター厩舎改築工事】 ○ 美浦トレーニング・センターは昭和５３年に開場し、他の施設と同様、厩舎についても老朽化が進ん

	でいるため、先行して設置したモデル厩舎及び第1期工事の検証等を踏まえ改築工事を行なうこととし、第2期工事を平成30年12月に着工、平成32年4月に竣工予定 【札幌競馬場一部厩舎改築工事】 ○ 競走馬の繋養に万全を期すことで円滑な競馬開催に資するため、老朽化した厩舎を改築することとし、平成30年8月に着工、平成31年6月に竣工予定
(3) システムの更新及び全体最適化	○ 各システムの信頼性・安定性を確保するため、以下のシステムについて更新等を実施 ◇平成30事業年度に更新等を行い運用開始した主なシステム ・キャッシュレス投票システム ・情報照会システム（UMAポート） ・JRAホームページシステム ・坂路調教タイム自動計測システム ◇平成30事業年度に更新等に着手した主なシステム ・加入者管理システム ・プッシュホン投票システム ・ネット投票システム ・投票照会システム ・トータリゼータセンタシステム ・地方競馬発売システム ○ システムの効率化、コストの削減を図るため、以下のとおり全体最適化を推進 ◇統合IT基盤への移行によるシステム統合 ・事務系センタシステム〔会計システム（OACS）、職員給与・人事管理システム（PMSⅢ）、工事競争入札参加資格審査システム（KSS）、開催従事員給与計算システム（EMS）〕 ・JRAネットDominoサーバ、JRAネットセキュリティサーバ ・番組企画システム（JARIS-R） ◇端末仮想化技術（シンククライアント端末）の導入 ・DIANA、OACS、PMSⅢ、KSS、マイナンバーシステム ・役職員用端末 ◇全体最適化を推進するその他のシステム ・ネット投票システムの統合 ・即PATシステムの統合

9. 効率的な業務運営

具体的な内容
【経費負担の抑制】 ○ ウインズの効率的なフロア運用（一部の時期限定または年間閉鎖）について、混雑度等を元に検証を行い、8 ウインズでフロア等の縮減を実施 ○ ウインズ後楽園及びウインズ高松において、業務の効率化を目指し、諸管理業務の内製化等を実施 ○ 少人数の職員での場外発売所運用による効率化を目指し、業務運営の効率化を図るため、ライトウインズ阿見において、「場外運営総合管理業務」を6月29日から導入。これにより、従来JRAが実施していた場外発売所の運営の一部をJRA関係団体に委託 【資産の有効活用】 ○ ジャパンカップにおけるロンジン社とのパートナーシップを継続し、お客様への還元とともに、同社のブランドイメージや競馬をイメージした広告展開でのジャパンカップのPRにより、国際的なスポーツエンターテインメントとしての雰囲気醸成 【インターネット投票における地方競馬の受託発売の実施】 ○ A-PAT会員及び即PAT会員向けに、インターネット投票による地方競馬の受託発売を実施（発売日数238日、発売金約884億円） 【人材教育の充実】 ○ 職員に対し、個々の更なる能力向上や組織の活性化のため以下の研修を実施 ◇ 人材育成における中長期的目的達成のための階層別研修 ◇ 部門・分野によって必要となる高度な専門的知識習得のための専門研修 ◇ 及び業務遂行上で求められる一般的で普遍的な知識・資格習得の機会付与を目的とした一般研修 ○ 関連団体の職員を対象とした研修等を実施し、JRAについての知識と理解を深めるとともに、JRAグループの一員としての意識を向上

＜別表目次＞

○ 別表 1（開催競馬場別開催実績）	P 36
○ 別表 2（平成 30 事業年度の各種実績）	P 37
○ 別表 3（開催回数の推移）	P 38
○ 別表 4（開催日数及び競走回数の推移）	P 38
○ 別表 5（出走頭数の推移）	P 38
○ 別表 6（お客様総数及び開催競馬場入場人員の推移）	P 39
○ 別表 7（発売金の推移）	P 39
○ 別表 8（電話・インターネット投票会員数の推移）	P 40
○ 別表 9（投票法毎の発売金の構成比の推移）	P 40
○ 別表 10（馬主・調教師・騎手・調教助手・厩務員数の推移）	P 41
○ 別表 11（国際競走等の状況）	P 42
○ 別表 12（特別振興事業について）	P 43
○ 別表 13（JRA 賞 受賞馬及び受賞者）	P 52
○ 別表 14（地方競馬全国協会を通じた交付金の交付）	P 53

【別表 1】

1. 開催競馬場別開催実績

	回 数	日 数	競 走 回 数	出 走 延 頭 数	入 場 人 員	発 売 金 額
札 幌	2回	12日	144競走	1,820 頭	201,503 名	80,749,559,700 円
函 館	2	12	144	1,786	86,762	71,180,436,900
福 島	3	20	240	3,532	241,119	121,038,248,000
新 潟	3	26	312	4,516	344,850	175,779,551,700
中 山	5	41	492	7,196	1,067,615	508,801,775,400
東 京	5	45	538	7,805	1,819,230	601,357,556,000
中 京	4	26	312	4,581	391,305	195,808,337,700
京 都	5	44	528	7,019	1,069,340	479,060,701,000
阪 神	5	42	504	6,769	808,506	449,459,989,100
小 倉	2	20	240	3,409	236,682	122,049,339,800
計	36	288	3,454	48,433	6,266,912	2,805,285,495,300

2. 競走成績

サラブレッド系	競 走 回 数				出走延頭数	出走実頭数	1競走平均出走頭数
	一般競走	特別競走	重賞競走	合 計			
2 歳	576 回	44 回	14 回	634 回	8,265 頭	3,162 頭	13.0 頭
3歳以上	1,837	740	117	2,694	38,604	8,005	14.3
障 害	108	8	10	126	1,564	504	12.4
合 計	2,521	792	141	3,454	48,433	※11,387	14.0

※ 平地競走と障害競走の両方に出走した馬の数は、284頭

◎ 平成 30 事業年度の各種実績

①開催回数・開催日数	36 回・288 日
②競走回数	3,454 競走（前年実績 3,455 競走）
③出走延頭数	48,433 頭（前年実績 49,148 頭）
④勝馬投票券の発売金	2,816,163,708,300 円（対前年比 101.7%）
⑤開催競馬場の入場人員	6,266,912 名（対前年比 101.5%）※ ¹
⑥お客様総数※ ²	180,066,817 名（対前年比 100.3%）

※¹うち女性入場人員は 1,088,007 名（対前年比 105.0%）。全体比 17.4%。

※²開催競馬場の入場人員にパークウインズ(5,955,993 名)、場外発売所(43,680,924 名)、電話・インターネット投票(124,162,988 名、海外競馬の利用者 1,891,370 名を含む)の利用者数を加えたもの。

● 開催日程の変更

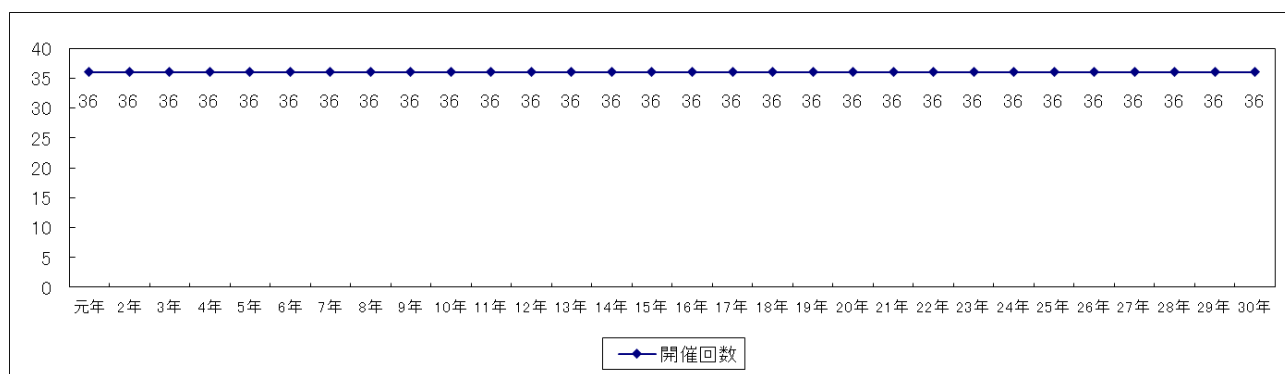
- ※ 積雪の影響により、第 1 回小倉競馬第 2 日（2 月 12 日）を中止し、2 月 13 日に代替競馬を実施
- ※ 台風の影響により、第 4 回阪神競馬第 9 日（9 月 30 日）を中止し、10 月 1 日に代替競馬を実施する予定のところ、台風の影響により当該代替競馬（10 月 1 日）を中止し、10 月 2 日に代替競馬を実施

〔発売金〕

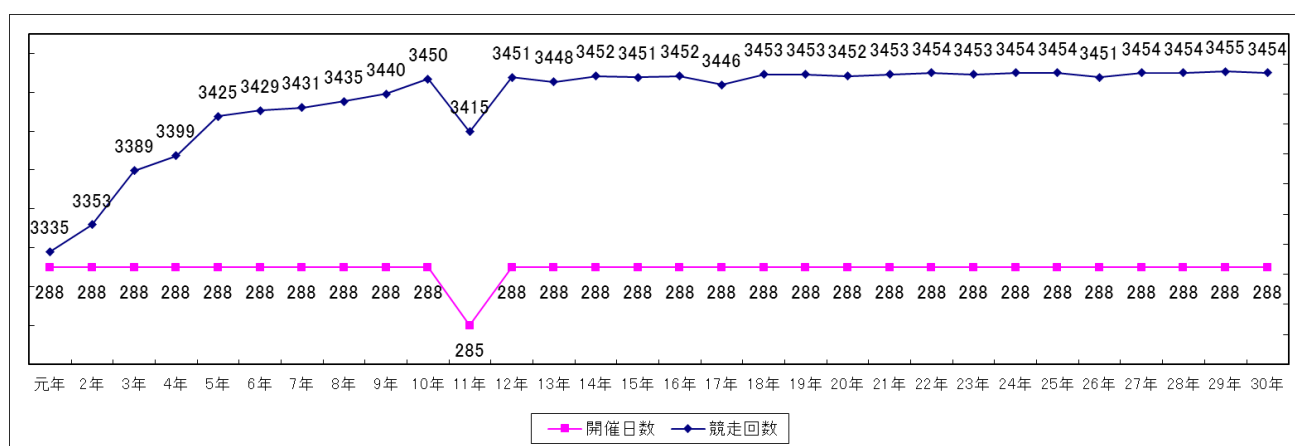
		対前年比	構成比(前年)
発売金総額	2,816,163,708,300 円	101.7%	-
(内訳)			
開催場における自場分	85,388,752,900 円	98.7%	3.0%(3.1%)
〃 他場分	53,398,920,400 円	99.9%	1.9%(1.9%)
パークウインズ	128,626,518,200 円	95.6%	4.6%(4.9%)
場外発売所	611,897,860,400 円	96.1%	21.7%(23.0%)
電話・インターネット投票 (海外競馬除く)	1,925,973,443,400 円	104.3%	68.4%(66.7%)
〃 (海外競馬)	10,878,213,000 円	106.0%	0.4%(0.4%)

- 海外競馬を除いた発売金は 2,805,285,495,300 円（対前年比 101.7%）。
- 10 競馬場、38 場外発売所（盛岡・水沢・佐賀の地方競馬場含む。3 月 17 日より J-PLACE となった種市は含まない。）及び電話・インターネット投票において勝馬投票券発売業務を実施。
- ウインズ浦和・ウインズ川崎・ウインズ三本木を含む 53 地方競馬施設に勝馬投票券発売業務を委託（J-PLACE 種市は 3 月 17 日に、J-PLACE 三刀屋・観音寺は 10 月 13 日にそれぞれ発売開始）。
- 中央競馬の発売金（海外競馬及びWIN5 を除く）に占める重賞競走の割合は 31.7%（前年実績 30.9%）、GI 競走の割合は 15.4%（前年実績 15.2%）。
- GI 競走の発売金は対前年比 101.6% となり、前年実績を上回った競走は、全 24 競走中 14 競走（JBC3 競走は含まない）。
- 海外競馬の発売を 13 競走で実施。

【別表 3】開催回数の推移（平成元年以降）

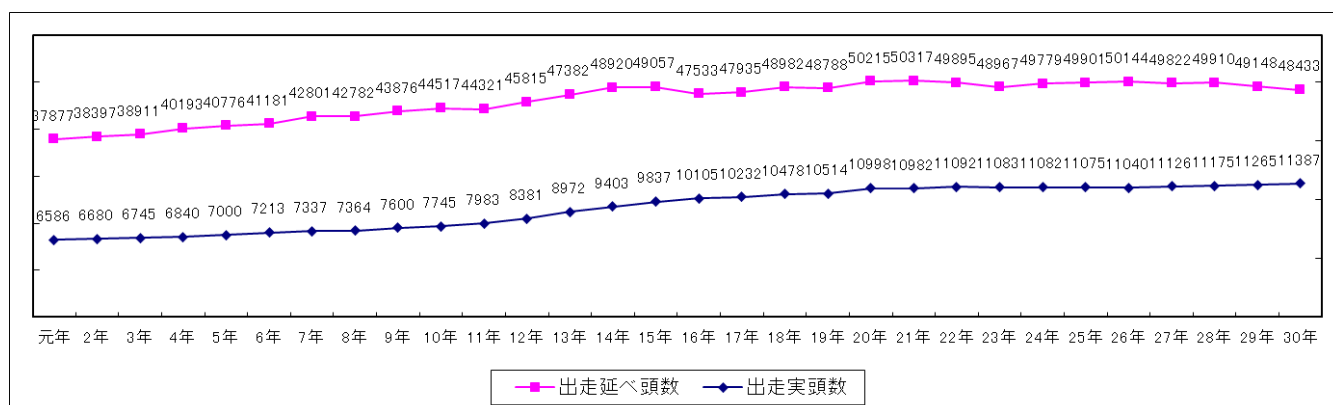


【別表 4】開催日数及び競走回数の推移（平成元年以降）

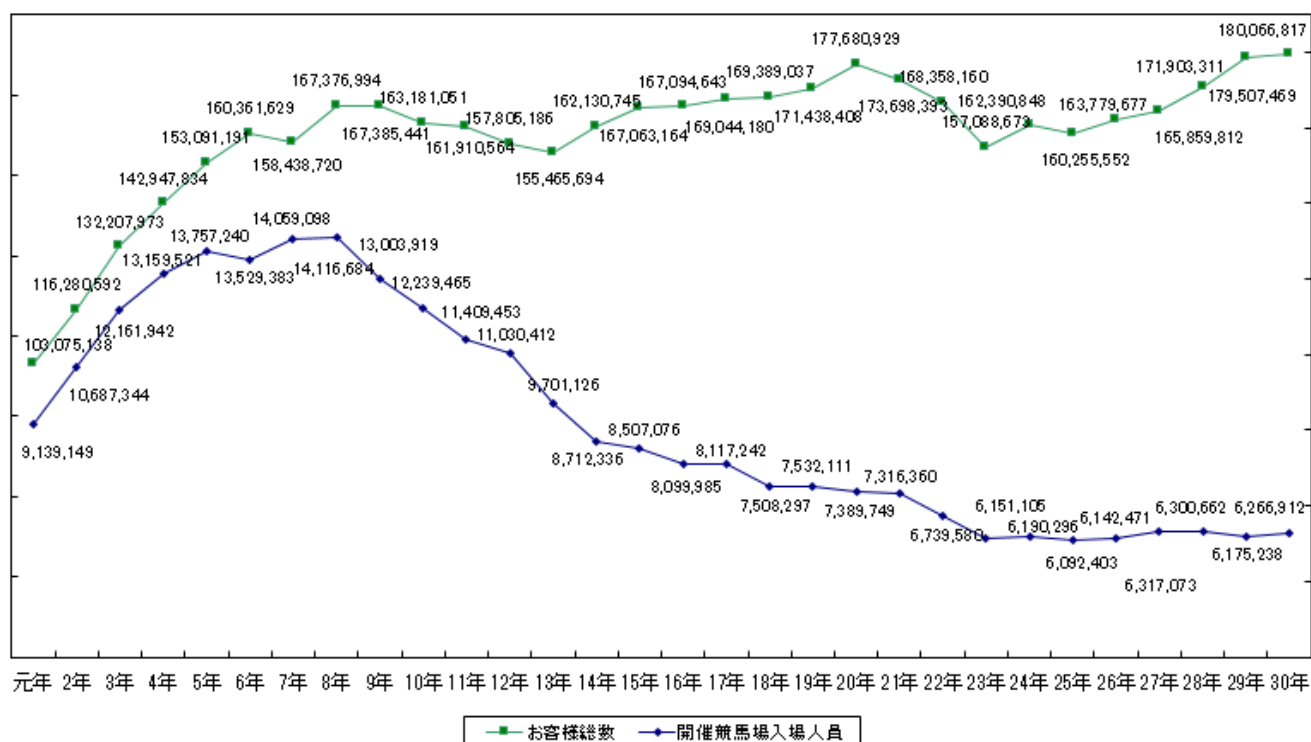


注）平成 11 年：厩務員春闘の影響により 3 回中山第 3 日、2 回阪神第 3 日、2 回中京第 3 日を取止め

【別表 5】出走頭数の推移（平成元年以降）

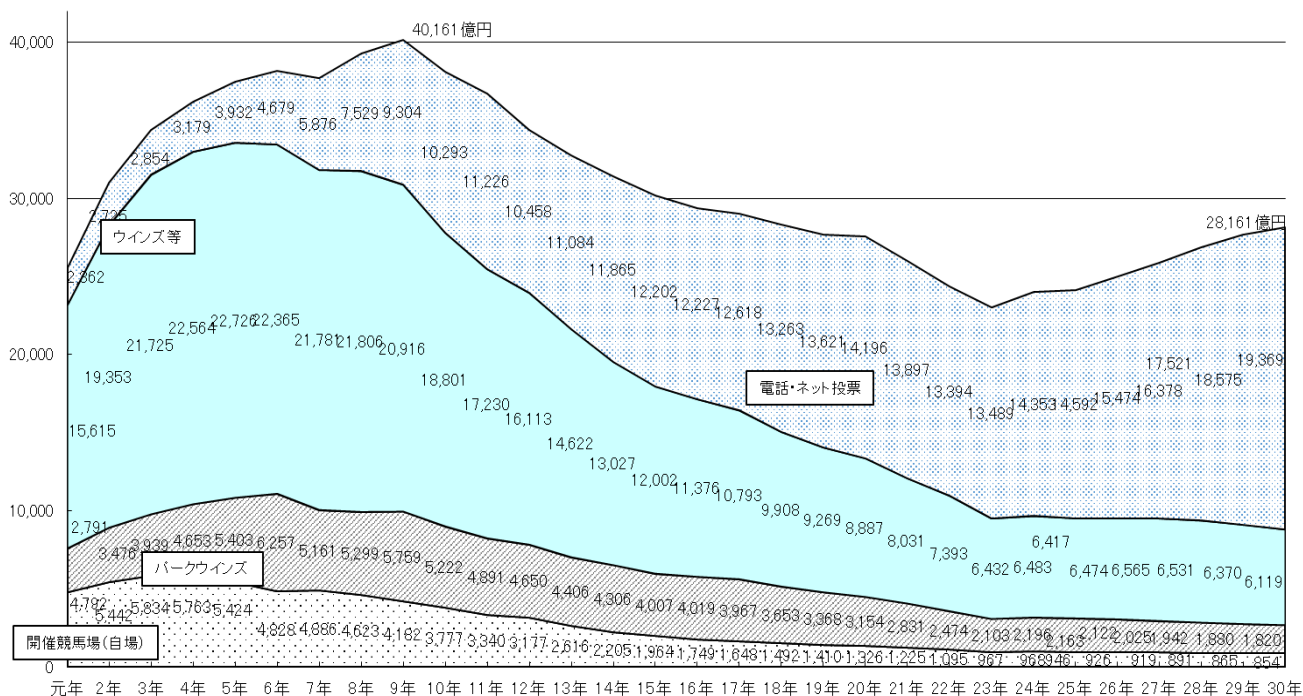


【別表 6】お客様総数及び開催競馬場入場人員の推移

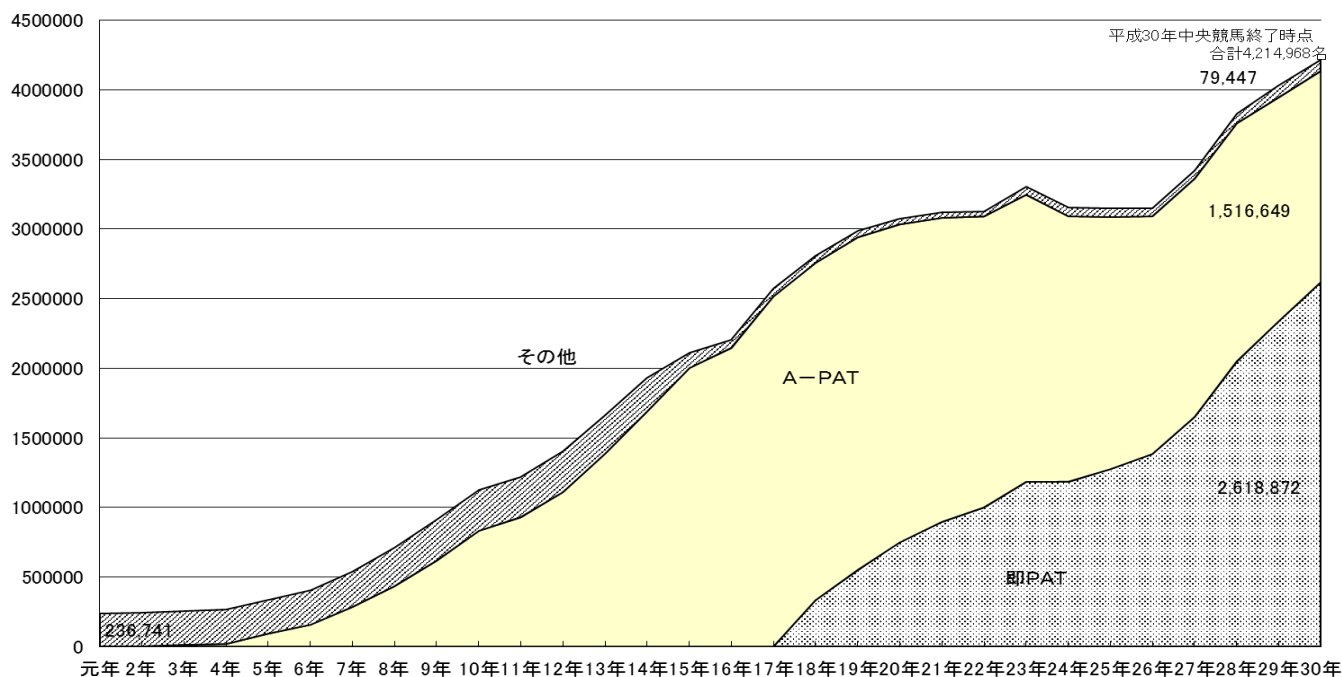


【別表 7】発売金の推移

○ 発売金の推移(単位: 億円)



【別表 8】電話・インターネット投票会員数の推移（平成元年以降）

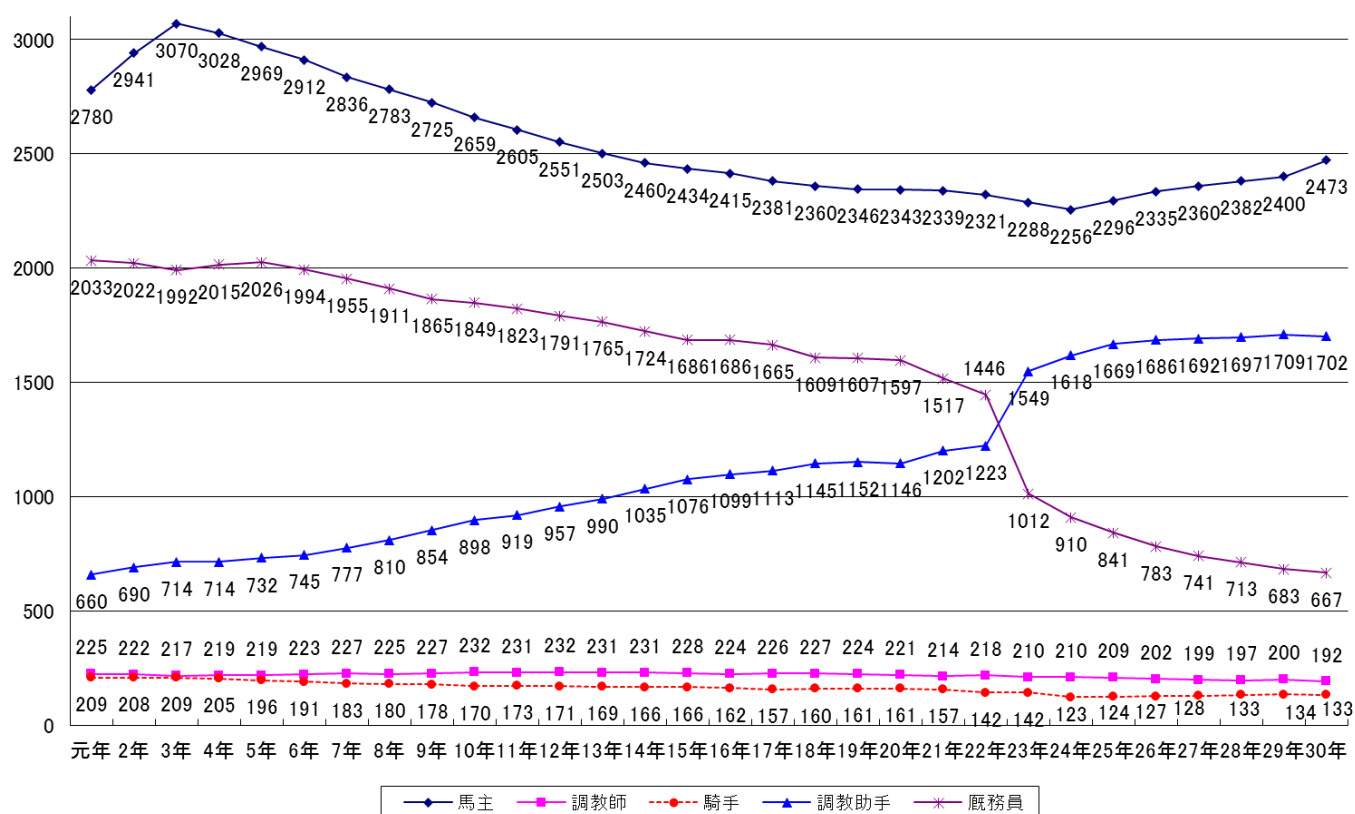


【別表 9】投票法毎の発売金の構成比（％）の推移（平成元年以降）

	単勝	複勝	枠連	馬連	ワイド	馬単	3連複	3連単	WIN5
平成元	2.8	2.2	94.9	-	-	-	-	-	-
2年	2.8	2.2	95.0	-	-	-	-	-	-
3年	2.9	2.3	81.3	13.5	-	-	-	-	-
4年	2.7	2.3	35.4	59.6	-	-	-	-	-
5年	2.8	2.5	26.6	68.1	-	-	-	-	-
6年	2.7	2.6	22.9	71.8	-	-	-	-	-
7年	2.6	2.6	19.9	74.9	-	-	-	-	-
8年	2.6	2.6	17.8	77.0	-	-	-	-	-
9年	2.8	2.8	16.4	78.0	-	-	-	-	-
10年	3.1	2.9	15.1	78.9	-	-	-	-	-
11年	3.1	3.0	12.9	79.3	1.7	-	-	-	-
12年	3.0	2.4	10.9	70.5	13.2	-	-	-	-
13年	3.1	2.4	9.9	70.4	14.2	-	-	-	-
14年	2.8	2.4	8.3	54.7	10.8	10.9	10.1	-	-
15年	2.7	2.5	6.4	34.2	5.8	24.1	24.3	-	-
16年	2.9	2.7	5.8	28.2	4.9	22.0	25.5	8.0	-
17年	3.1	3.3	4.7	21.1	4.2	17.2	19.3	27.1	-
18年	3.4	4.0	4.8	19.6	4.4	15.7	19.4	28.7	-
19年	3.8	4.2	4.6	18.6	4.4	14.5	20.1	29.8	-
20年	3.7	5.1	4.3	17.1	4.3	12.4	19.2	33.9	-
21年	3.9	5.9	4.0	15.6	4.5	10.4	18.0	37.7	-
22年	4.2	6.4	3.8	15.1	4.8	9.8	18.7	37.3	-
23年	4.5	7.2	3.5	14.3	5.1	9.1	18.1	36.2	2.0
24年	4.7	7.6	3.6	13.9	5.4	8.7	18.2	35.8	2.1
25年	5.0	8.3	3.5	13.6	5.5	8.5	18.2	35.6	1.8
26年	5.3	8.6	3.5	14.3	6.0	7.9	18.6	34.2	1.5
27年	5.5	7.7	3.6	15.1	6.8	7.6	19.6	32.7	1.4
28年	5.6	8.1	3.4	14.5	7.2	7.2	19.9	32.8	1.3
29年	5.9	8.4	3.3	14.4	7.6	6.9	20.1	32.2	1.2
30年	6.2	8.7	3.1	14.3	8.2	6.6	20.1	31.5	1.3

※ 海外競馬分を除く

【別表 10】 馬主・調教師・騎手・調教助手・厩務員数の推移（平成元年以降）



【別表 11】 国際競走等の状況

(1) J R A 所属馬の海外遠征状況

出走月日	開催国	競走名	グレード	馬場	距離	馬名	騎手名	調教師名	着順／出走頭数
3月31日	ドバイ	ゴドルフィンマイル	G2	ダート	1600m	アディラート	C.ルメール	須貝 尚介	3/14
3月31日	ドバイ	ゴドルフィンマイル	G2	ダート	1600m	アキトクレセント	武 豊	清水 久詞	14/14
3月31日	ドバイ	UAEダービー	G2	ダート	1900m	タイキフェルヴール	J.モレイラ	牧浦 充徳	6/9
3月31日	ドバイ	UAEダービー	G2	ダート	1900m	ルツジェーロ	C. ルメール	鹿戸 雄一	8/9
3月31日	ドバイ	ドバイゴールデンシャヒーン	G1	ダート	1200m	マテラスカイ	武 豊	森 秀行	5/8
3月31日	ドバイ	ドバイターフ	G1	芝	1800m	ヴィブロス	C.デムーロ	友道 康夫	2/15
3月31日	ドバイ	ドバイターフ	G1	芝	1800m	リアルスティール	M.バルザローナ	矢作 芳人	3/15
3月31日	ドバイ	ドバイターフ	G1	芝	1800m	ディアドラ	C. ルメール	橋田 満	3/15
3月31日	ドバイ	ドバイターフ	G1	芝	1800m	クロコスミア	岩田 康誠	西浦 勝一	7/15
3月31日	ドバイ	ドバイターフ	G1	芝	1800m	ネオリアリズム	J.モレイラ	堀 宣行	8/15
3月31日	ドバイ	ドバイシーマクラシック	G1	芝	2410m	レイデオロ	C. ルメール	藤沢 和雄	4/10
3月31日	ドバイ	ドバイシーマクラシック	G1	芝	2410m	モズカッチャン	C.デムーロ	鮫島 一歩	6/10
3月31日	ドバイ	ドバイシーマクラシック	G1	芝	2410m	サトノクラウン	J.モレイラ	堀 宣行	7/10
3月31日	ドバイ	ドバイワールドカップ	G1	ダート	2000m	アウォーディー	武 豊	松永 幹夫	6/10
4月14日	オーストラリア	シドニーカップ	G1	芝	3200m	プレストウィック	J.モレイラ	武藤 善則	競走除外
4月29日	香港	チェアマンズスプリントプライズ	G1	芝	1200m	ファインニードル	T. ベリー	高橋 義忠	4/9
4月29日	香港	クイーンエリザベス2世カップ	G1	芝	2000m	アルアイン	C. デムーロ	池江 泰寿	5/8
4月29日	香港	クイーンエリザベス2世カップ	G1	芝	2000m	ダンビュライト	T. ベリー	音無 秀孝	7/8
7月22日	フランス	メシドール賞	G3	芝	1600m	ジェニアル	武 豊	松永 幹夫	1/4
7月22日	フランス	ベビニエール賞	L	芝	2100m	ラルク	武 豊	松永 幹夫	8/10
9月9日	韓国	コリアスプリント	韓国G1	ダート	1200m	モーニン	藤井 勘一郎	石坂 正	1/13
9月9日	韓国	コリアカップ	韓国G1	ダート	1800m	ロンドンタウン	岩田 康誠	牧田 和弥	1/14
9月12日	フランス	トゥーレル賞	L	芝	2400m	ラルク	武 豊	松永 幹夫	8/8
9月15日	フランス	Prix Reconversion d'Un Cheval de Courses en Cheval d'Equitation Western		AWT	1300m	ゲネラルブローベ	武 豊	宮本 博	10/12
9月16日	フランス	フオワ賞	G2	芝	2400m	クリンチャー	武 豊	宮本 博	6/6
9月16日	フランス	パン賞	G3	芝	1400m	ジェニアル	武 豊	松永 幹夫	10/11
10月7日	フランス	凱旋門賞	G1	芝	2400m	クリンチャー	武 豊	宮本 博	17/19
10月7日	フランス	オペラ賞	G1	芝	2000m	ラルク	武 豊	松永 幹夫	13/15
10月7日	フランス	フォレ賞	G1	芝	1400m	ジェニアル	武 豊	松永 幹夫	14/15
10月20日	オーストラリア	コーフィールドカップ	G1	芝	2400m	チェスナットコート	川田 将雅	矢作 芳人	13/18
10月20日	オーストラリア	コーフィールドカップ	G1	芝	2400m	ソールインバクト	坂井 瑠星	戸田 博文	14/18
11月3日	オーストラリア	ホッサムハンデキャップ	G3	芝	2500m	ソールインバクト	H. ボウマン	戸田 博文	11/11
11月6日	オーストラリア	メルボルンカップ	G1	芝	3200m	チェスナットコート	川田 将雅	矢作 芳人	14/24
12月9日	香港	香港ヴァーズ	G1	芝	2400m	リスグラシュー	J.モレイラ	矢作 芳人	2/14
12月9日	香港	香港ヴァーズ	G1	芝	2400m	クロコスミア	岩田 康誠	西浦 勝一	10/14
12月9日	香港	香港スプリント	G1	芝	1200m	ファインニードル	川田 将雅	高橋 義忠	8/11
12月9日	香港	香港マイル	G1	芝	1600m	ヴィブロス	W.ビュイック	友道 康夫	2/14
12月9日	香港	香港マイル	G1	芝	1600m	ベルシアンナイト	M.デムーロ	池江 泰寿	5/14
12月9日	香港	香港マイル	G1	芝	1600m	モズアスコット	C.ルメール	矢作 芳人	7/14
12月9日	香港	香港カップ	G1	芝	2000m	ディアドラ	C.ルメール	橋田 満	2/9
12月9日	香港	香港カップ	G1	芝	2000m	サングレーザー	J.モレイラ	浅見 秀一	4/9
12月9日	香港	香港カップ	G1	芝	2000m	ステファノス	W.ビュイック	藤原 英昭	9/9

(2) 外国馬の J R A 競走への出走状況

競走名	馬名	性	年齢	所属国	着順
高松宮記念(G I)	ブリザード	せん	7歳	香	5着
安田記念(G I)	ウエスタンエクスプレス	せん	6歳	豪	10着
宝塚記念(G I)	ワーザー	せん	7歳	香	2着
スプリンターズS(G I)	ラッキーバブルズ	せん	7歳	香	中止
ジャパンカップ(G I)	サンダリングブルー	せん	5歳	米	10着
	カブリ	牡	4歳	愛	11着
チャンピオンズC(G I)	パヴェル	牡	4歳	米	15着

【別表 12】

◎ 特別振興事業について

① 競馬振興事業（平成30事業年度）

【JRA直接実施事業】

事業名	事業内容	実施額（円）
1.競馬場防災体制整備事業	競馬場における、帰宅困難者を想定した防災備蓄品の整備（更新）	30,661,200
2.キャッシュレス投票システム開発事業	キャッシュレス投票の導入に向けたシステム開発	692,776,780
3.競馬理解増進総合事業 （競馬場誘引型） （催事型） （メディア活用型） （馬事紹介型）	・競馬場への来場を誘引するための催事の実施 ・競馬未経験層を主な対象としたキャンペーンや催事等の実施 ・メディア等を通じた競馬未経験層への理解増進 ・馬を活用した催事等の実施	2,357,214,442
4.厩舎関係者救護体制円滑化事業	医療機器整備を通じた、競馬場等の近隣医療機関との連携強化	47,403,406
5.国際競馬振興事業	アジア競馬振興関連経費、諸外国における日本競馬プロモーション展開等	36,990,312
6.地方競馬ネット投票システム機能改善事業	地方競馬ネット投票発売を円滑に行うための機能改善、投票画面のリニューアル	64,210,000
7.海外競馬発売システム機能改善事業	海外競馬発売システム開発を踏まえた機能改善	13,480,237
8.東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた馬事公苑整備工事に伴う各種馬術競技会開催等支援事業【直接実施分】	東京競馬場等の馬術競技会開催に必要な競技用馬の確保等支援	6,520,503
9.東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とする「馬術の裾野拡充」及び「引退競走馬のセカンドキャリア形成等に向けた取組み支援」事業【直接実施分】	引退競走馬の諸課題に関する調査研究、障害者乗馬・ホースセラピー等活動支援啓発	73,882,129
10.東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた会場整備等支援事業	東京オリパラ組織委員会の取組みへの協力を通じた、馬事振興・競馬産業への理解醸成	1,000,000,000
11.東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会馬術競技開催に向けたJRA馬事公苑整備事業	JRA馬事公苑諸施設の整備	4,219,446,474
合 計		8,542,585,483

【助成事業】

事業名	事業実施主体	事業内容	交付額（円）
1.競馬・馬事文化紹介アニメ映像制作事業	(公財)馬事文化財団	アニメ映像制作を通じた競馬・馬事文化に関する理解増進	50,000,000
2.厩舎関係者海外研修事業	(一社)日本調教師会	厩舎関係者に対する研修の実施	25,000,000
3.調教補助設備導入支援事業	(一社)日本調教師会	トレーニング・センターにおける調教補助設備（ウォーキングマシン）導入に係る支援	13,915,563
4.騎手共済制度整備事業	(一財)競馬共助会	中央競馬騎手に対する災害補償	200,000,000
5.引退名馬繫養展示事業	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	競馬の発展に貢献した名馬とのふれあい創出、名馬の余生の環境作り	56,714,000
6.競走馬マイクロチップ埋込推進事業	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	マイクロチップ埋込に係る経費の一部補助	20,556,000
7.馬文化保存事業	(公財)馬事文化財団	在来馬種保存、馬事伝統行事保存	120,000,000
8.競馬技術交流促進事業	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	中国馬産業の事情調査、人材交流、日本競馬関連産業のPR	21,000,000
9.地方競馬との共同広報事業	特別区競馬組合 兵庫県競馬組合	地方競馬主催者と共同で行う情報提供・広報宣伝	156,190,585
10.軽種馬改良情報システム整備事業	(公社)日本軽種馬協会	軽種馬改良情報システムの改修	60,000,000
11.地方競馬振興促進事業	各地方競馬主催者等	地方競馬場、発売施設の整備等	189,137,720
12.海外への日本競馬情報発信事業	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	海外への映像提供、サイト等を通じた海外への日本の競馬情報発信	100,000,000
13.競走馬理化学研究所における薬物検査体制の国際標準化事業	(公財)競走馬理化学研究所	国際標準に合致した薬物検査体制の構築・整備	464,000,000
14.競走馬理化学研究所における競走馬の遺伝子ドーピング及び遺伝的健全性対策事業	(公財)競走馬理化学研究所	競走馬の不正な遺伝子操作の抑止及び規制に係る事業	42,000,000
15.東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた馬術競技強化対策事業	(公社)日本馬術連盟 (公社)日本近代五種協会	東京オリンピック・パラリンピックで好成績をあげるための選手強化、優良競技馬の確保等	870,700,000 37,000,000
16.東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた馬事公苑整備工事に伴う各種馬術競技会開催等支援事業【助成分】	(公社)日本馬術連盟 (公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会	馬事公苑整備工事に伴い影響を受ける各種馬術競技会が安定的に開催されるための支援	105,000,000 71,086,575
17. 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とする「馬術の裾野拡充」及び「引退競走馬のセカンドキャリア形成等に向けた取組み支援」事業【助成分】	(公社)全国乗馬倶楽部振興協会	馬に係わる人材の養成、障害者乗馬・ホースセラピー活動の充実、引退競走馬の乗用馬への転用促進等	182,000,000
合 計			2,784,300,443

②畜産振興事業（平成30事業年度）

	事業名	事業実施主体	事業内容	交付決定額 (千円)
1	福島県産食肉風評被害 対策販売支援事業	(公財) 日本食肉消費総合センター	福島県産食肉の消費回復を支援するため、首都圏及び福島県内において福島県産食肉を販売する小売店にマネキンを派遣し、試食販売会を開催する。	10,810
2	被災地復興支援酪農体験事業	(一社) 中央酪農会議	酪農への理解醸成及び被災地の酪農復興を図るため、福島県及び熊本県の児童に対する乳牛等のふれあい体験を実施する。	5,433
3	被災地めん羊放牧推進 調査研究事業	(一社) 日本草地畜産種子協会	被災地においてめん羊を活用した営農の再開を図るため、めん羊を放牧した場合の畜産物への放射性物質の移行に関する調査試験を行う。	89,009
4	AI,IoT 等活用畜産先進 モデル調査事業	(公社) 畜産技術協会	米国、豪州、EUにおけるAI、IoTを取り入れた先進的な畜産経営技術を調査し、我が国に適したスマート畜産の普及を図る。	14,772
5	スマート畜産調査普及 事業	(一社) 全日本畜産経営者協会	最新技術の導入の効果や実態を調査しスマート畜産技術のマニュアルを作成するとともに、畜産経営者等が参加するシンポジウムを通じてスマート畜産の普及を図る。	18,417
6	新型巣箱を利用した養 蜂環境の調査研究事業	(一社) トウヨウミツバチ協会	採蜜作業における労働量軽減と作業者の安全性向上を図るため、オーストラリアで開発されたフローハイブ巣箱に、日本の気候風土や養蜂環境に適した改良を行う。	37,580
7	酪農ヘルパー業務適正 化・効率化事業	(一社) 酪農ヘルパー全国協会	様々な飼養管理方法について酪農家及び酪農ヘルパーの作業実態を調査し、飼養管理作業手順の標準化を図り、酪農家ヘルパーの働きやすさの向上につなげる。	12,393
8	畜産汚水の発生・浄化に おける軽労型窒素低減 システムの開発・普及事 業	(一財) 畜産環境整備機構	自動制御システムによる養豚の汚水浄化処理の効率化を図るとともに、硝酸性窒素等のピーク時のみに稼働させるピークカット処理技術を開発する。	79,605
9	馬飼養農場における飼 養管理技術革新事業	(国大) 鹿児島大学	熱検出画像認識技術とAI技術を応用した非侵襲的手法によって馬の分娩時期等を正確に予測、通知する技術を開発・実証する。	120,263
10	養蜂経営における女性 の貢献調査事業	(公社) 国際農林業協働協会	女性の養蜂経営への関わりを調査し、経営への貢献を可視化することで、地域の養蜂経営における女性の積極的な参加を促進する。	5,022
11	畜産女性経営者育成強 化事業	(公社) 中央畜産会	女性自身の経営者能力の向上、女性経営者の育成及び女性の能力発揮に向けた関係者の意識改革とサポート体制の強化を図る。	93,599
12	未来の畜産女子育成プ ロジェクト	(公社) 国際農業者交流協会	畜産業が盛んで、かつ女性が農業界で活躍するニュージーランドにおいて女子農業高校生を対象とした研修を	19,537

			実施し、畜産業の可能性を認識させ、広い視野と国際感覚を養うことを目的とする。	
13	畜産現場における障がい者雇用促進支援事業	(公社) 中央畜産会	障がい者の畜産現場への参画推進を支援するため、シンポジウムの開催や手引書の作成等により受け入れ側と就農を希望する側の理解を深めるとともに、体験就労等を通して参画のためのマッチングに取り組む。	58,342
14	薬剤耐性(AMR)に配慮した牛肺炎に対する抗菌薬療法確立事業	(国大) 鹿児島大学	人及び馬医療において臨床応用した気管支肺炎洗浄法を牛に応用し、薬剤耐性(AMR)に配慮した合理的な牛肺炎の抗菌薬療法を確立する。	17,389
15	ジビエ理解醸成による畜産物の生産環境保全・安全確保推進事業	(公財) 日本食肉消費総合センター	野生鳥獣による農畜産物被害や家畜伝染病の感染を防止するため、研究会やシンポジウムを開催して、畜産関係者や消費者の理解を促進し、ジビエの需要拡大を図る。	30,970
16	牛白血病感染・発症抵抗性牛の指標開発事業	(国大) 東京大学	牛白血病ウイルス(BLV)感染及び地方病性牛白血病(EBL)発症に抵抗性を示す牛群から選抜育種の指標となる特異的な遺伝子を同定する。	67,320
17	生乳と乳製品の安全性・信頼確保支援事業	(公財) 日本乳業技術協会	6次産業化に取り組む酪農経営を支援するため、ファームチーズの安全性や工房環境の検査等に係る技術的な支援を行うとともに、生乳検査の信頼性を確保するための認証制度の適切な運用を行う。	70,625
18	国産食肉理解醸成食育推進事業	全国食肉事業協同組合連合会	国産食肉の安全性、健康面の効用等に関する教材を作成するとともに、研修会や体験交流会等を実施し、食肉生産の理解醸成と国産食肉の需要拡大を図る。	250,188
19	新たな指標細菌による食肉汚染防止法有効性評価事業	(国大) 東京大学	畜産物由来食中毒の発生を抑制するため、豚レンサ球菌を指標としたフードチェーンにおける畜産物の汚染検出手法を開発する。	23,207
20	養鶏場のカンピロバクター汚染に関わる野生動物調査事業	(国大) 東京大学	鶏便や鶏舎内試料に加え周辺の野生動物糞便を収集し、カンピロバクターDNAの有無、野生動物種の特定から、鶏舎への汚染源を解明する。	28,892
21	子実用とうもろこし等農薬安全性調査事業	(一社) 日本草地畜産種子協会	国産濃厚飼料の生産拡大に資するため、スイートコーン等で登録されている農薬を中心に残留試験を行い、子実用とうもろこし等の適用農薬拡大のためのデータを整備する。	104,401
22	豚枝肉脂質判定技術開発調査事業	(公社) 日本食肉格付協会	豚枝肉の脂肪及び肉の品質と食味との関連を理化学分析や食味試験により解析し、豚枝肉における食味や品質に関連した脂肪質の客観的な評価手法を開発する。	26,013
23	ジャージー牛の乳肉製品プレミアム化事業	(国大) 岡山大学	ジャージー種の牛乳や脂肪で特徴的な黄色度を強める遺伝子多型を調査するとともに、適切な飼養と加工技術を開発し、乳肉製品の高付加価値化を	12,433

			図る。	
24	食肉処理施設の施設整備基準作成事業	(公財) 日本食肉生産技術開発センター	食肉処理施設の再編整備や施設の建替を推進するため、処理作業の効率化に対応できる食肉処理施設の整備基準を作成する。	5,945
25	酪農乳業産業史を活用した競争力強化事業	(一社) Jミルク	「明治 150 年」の一環として、我が国酪農・乳業の歴史や知見を分析・整理し、シンポジウムや展示による理解醸成と、海外の食文化に合致する商品開発やマーケティング等への活用を促し、アジア地域における国産乳製品の事業展開を進める。	86,765
26	牛肉のうま味成分高付加価値化推進調査研究事業	(一社) 全国肉用牛振興基金協会	牛肉のうま味に関する主要成分の検索、熟成日数の経過とともに変化するうま味成分の推測方法の検討等を行い、牛肉に対する消費者ニーズの変化や多様化に即応した生産・流通を図る。	66,423
27	Wagyu 肉生産・流通等実態調査事業	(公社) 畜産技術協会	牛肉の輸出拡大に資するため、海外産 Wagyu 肉の生産・流通実態等を調査し、我が国における和牛肉輸出の戦略検討の基礎資料とする。	19,230
28	EU 及び国内の山羊チーズ生産消費実態調査事業	(公社) 畜産技術協会	芽生えつつある我が国山羊チーズの生産消費の発展的展開を図るため、EU の実態及び国内の山羊チーズの生産・流通・消費の実態を調査し、情報提供を行う。	21,063
29	牛の反芻咀嚼解析による牛群評価法研究事業	(国大) 岩手大学	加速度センサを牛の頸部に装着し反芻時咀嚼と飼料やルーメンの状態を評価する手法を開発し、乳牛の疾病発生抑制及び生産性向上を図る。	52,855
30	畜産の高度化に向けた映像情報提供事業	(公社) 中央畜産会	地域の優良な畜産物生産・経営技術情報、女性及び障がい者の活躍促進、先進的な畜産物輸出促進活動等の情報を収集し、わかりやすい映像情報として提供する。	128,116
31	黒毛和牛の魅力創出技術の構築事業	(国大) 神戸大学	黒毛和牛の赤身部位に高頻度で生じる肉眼で判別できない微小なサシ(微小サシ)の簡易マーカーを開発し、国産和牛の赤身部位の優れた肉質特性について国内外への PR を実施する。	3,928
32	生乳の異常風味発生に対する対策事業	(国大) 北海道大学	酪農家調査及びバルク乳の成分分析を実施し、生乳の異常風味発生メカニズムを解明し、その防止策を開発する。	19,073
33	哺乳子牛と搾乳牛のトレーサビリティの高度化事業	学校法人 東京理科大学	哺乳及び搾乳ロボットから子牛の育成情報や母牛の泌乳情報等を自動収集し、ブロックチェーン技術と AI 解析を活用した乳用子牛の将来の生産性予見システムを開発する。	105,750
34	交雑種による肉用牛生産基盤拡大実証事業	(公社) 畜産技術協会	繁殖時の行動量測定等に係る ICT 機器を導入し、和牛の受精卵を移植した交雑雌牛の繁殖や哺乳に係るデータを収集・分析することで、ICT 機器導	40,396

			入による交雑種を活用した効果的な肉用牛生産基盤体系を実証する。	
35	ブタの精液・受精卵の高度保存技術開発事業	(国大) 鹿児島大学	種々の細胞保護材を活用してブタの受精卵・精液の冷蔵・凍結保存技術を開発し、繁殖性の改善を図る。	101,520
36	豚の抗病性向上手法開発事業	(国大) 東北大学	豚の抗病性向上に寄与する DNA マーカーや、飼養管理による免疫能向上が疾病抵抗性に及ぼす効果を検証し、抗菌剤に依存しない疾病防除手法を開発する。	77,977
37	腸内環境改善による畜産物の高付加価値化事業	(国大) 千葉大学	未利用海産資源由来発酵飼料を給与した豚の筋肉改変メカニズムを明らかにするとともに、鶏の生産への応用を図り、豚及び鶏の生育促進による生産コスト低減と肉質向上による高付加価値化を図る。	10,107
38	製紙副産物を活用した馬関節炎治療薬の開発事業	(国大) 北海道大学	運動器疾患の治療薬として活用されつつあるポリ硫酸ペントサンを製紙過程の副産物から製造し、馬の臨床試験を実施し、国内産で安全・安価な治療薬を開発する。	71,941
39	免疫去勢による国産豚国際競争力強化事業	(国大) 宮崎大学	動物福祉の観点から欧米で広がっている、養豚における麻酔による外科的処置や免疫学的な去勢が、我が国養豚の生産性や肉質に及ぼす影響を明らかにする。	78,756
40	家畜下痢症の感染制御のための事業	(国大) 帯広畜産大学	牛におけるクリプトスポリジウム症の感染状況を明らかにし、抗クリプトスポリジウム薬の開発とその感染メカニズムの解明を行う。	37,801
41	馬飼養衛生管理特別対策事業	(公社) 中央畜産会	馬飼養衛生管理に必要な感染症の知識習得、技術指導書の作成、地域馬の飼養状況や衛生管理に関する実態調査等を行う。	43,649
42	馬伝染性疾病防疫推進対策事業	(公社) 中央畜産会	馬インフルエンザ、馬鼻肺炎等伝染性疾病の発生防止の徹底及び日本脳炎、破傷風等疾病に対する高い免疫確保等を図るため、生産者等と一体となったワクチン予防接種等を行う。	191,087
43	地域自衛防疫取組促進対策事業	家畜衛生対策推進協議会	地域の自衛防疫組織を活用した牛マイコプラズマ性乳房炎と牛白血病の早期摘発及び伝染性疾病発生等に備えた防疫演習の実施や飼養衛生管理基準に基づく自衛防疫への取組を実施する。	227,585
44	家畜疾病、自然災害緊急支援体制確保事業	畜産経営支援協議会	口蹄疫等の家畜伝染性疾病や地震等大規模災害が発生した際の初動対応に必要な緊急用機材及び資材の購入、備蓄、運搬を支援する。	48,855
45	地鶏の鳥インフルエンザウイルス感受性研究事業	(国大) 鹿児島大学	地鶏について高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) 感受性と伝播性を調べ、コマーシャル鶏とは異なる地鶏の HPAI ウイルス感染及び伝播リスクを明らかにする。	64,695

46	家畜感染症検査における精度管理体制確立のための基盤整備事業	(一財) 生物科学安全研究所	家畜保健衛生所における精度管理体制の確立に必要な各種検査法等に関する研修会の開催や外部精度管理の技能試験を実施するための体制を整備する。	17,302
47	アジア地域臨床獣医師等総合研修事業	(公社) 日本獣医師会	我が国への越境性感染症の侵入防止を図るため、アジア諸国で家畜の診療防疫業務に従事する臨床獣医師等を招聘し、獣医系大学等において先端知識・技術を含む臨床業務を習得させる。	322,716
48	乗用馬防疫推進事業	(公社) 全国乗馬倶楽部振興協会	乗馬クラブ等で飼養されている乗用馬において、馬インフルエンザ、日本脳炎、破傷風等の伝染性疾病発生を予防する。	30,472
49	北海道東部地域の土壌凍結地帯におけるペレニアルライグラスによる草地簡易更新技術確立事業	(国大) 北海道大学	放牧用草種として優れ、草地植生改善効果も高く、近年、北海道東部地域において酪農家が導入しようとする動きがあるペレニアルライグラスの導入の方法や効果を明らかにするため、草地の植生改善を図りながら、高品質の放牧用草地に改変していく簡易更新技術の開発・確立を行い、現場への普及につなげることを目的とする。	11,667
50	有機子実とうもろこしの栽培法確立と調査分析研究事業	津別町農業協同組合	有機子実とうもろこしの栽培方法の確立に向けて、国産子実とうもろこしの生産者への栽培技術の指導及び生育状況等の調査を実施する。	3,587
51	和牛の担い手高度化支援強化事業	(一社) 岡山県畜産協会	新規参入希望者を対象に繁殖経営に関する基礎知識や体験実習研修及び就農後のスキルアップのための研修を行い、和牛繁殖経営への就農推進と地域リーダーを育成する。	7,576
52	孵化場体質強化推進事業	(一社) 日本種鶏孵卵協会	地域別のひなの需給予測及び生産費の算定システムを構築するとともに、種鶏管理や孵卵技術等の技術研修を行う。	11,265
53	肉用牛ゲノム情報活用推進事業	(一社) 家畜改良事業団	肉用牛の発育や飼料利用性、繁殖形質のゲノミック評価情報について、関係県や大規模経営体との連携によりゲノム情報の活用を推進し、ゲノミック評価の実用化を図る。	88,149
54	人工授精普及定着化事業	(公社) 日本馬事協会	馬産先進国である仏国からの輸入凍結精液を活用し交配に適した繁殖牝馬群を整備するとともに、凍結精液の製造技術と人工授精(AI)技術を確立する。	46,844
55	精子発現遺伝子による雌雄産み分け法開発事業	(国大) 広島大学	ウシ及びブタの雌雄産み分けのためのX/Y遺伝子の精子分離技術について国内独自の凍結、融解、人工授精法を考案することを目的とする。	95,040
56	牛肉のおいしさ評価技術高度化研究開発事業	(一社) 家畜改良事業団	牛肉の成分分析値に基づくおいしさ総合評価指標について、測定効率化、推定方法の改善等を行い、育種改良への活用法等の研究開発を行う。	62,319

57	若齢種雄牛精液の高度生産技術開発事業	(一社) 家畜改良事業団	後代検定に性選別精液を活用することにより、農家が効率的に後継雌牛の確保ができるよう、若齢種雄牛精液を効率的かつ安定的に生産するための技術開発を行う。	45,641
58	酪農経営支援に関する調査検討事業	乳用牛群検定全国協議会	乳用牛群検定に蓄積されている気象情報等の膨大な関連情報を用いて人工知能(AI)等を利用した農家個々への生産コスト削減等の技術提案についての調査検討を行う。	25,395
59	早期牛乳房炎の診断技術開発事業	(国大) 東京大学	牛乳房炎を生産現場で簡便に診断できるようにするため、乳に排泄される炎症性脂質の中から乳房炎マーカーとなりうる物質を見出し、診断キットを作製する。	35,964
60	MHC 領域内の疾患責任遺伝子診断技術開発事業	(国大) 東京農工大学	乳房炎や牛白血病などの疾患対策を推進するため、疾患責任遺伝子を含む主要組織適合遺伝子複合体(MHC)領域のマイクロサテライトタイピング法を開発し、MHC 領域の疾患責任遺伝子を同定する。	71,872
61	蜜蜂に対するウイルス感染等実態調査事業	(一社) 日本養蜂協会	蜂蜜や花粉交配用蜜蜂の安定供給を図るため、蜜蜂へのウイルス感染等実態について調査を行う。	3,545
62	国産長期熟成生ハム普及性及び実態調査事業	(一社) 国産生ハム普及協会	国産長期熟成生ハムの市場調査、生産者・養豚業者の実態調査を実施し、現状把握と分析を行う。	7,122
63	乳牛削蹄技術安定化事業	(公社) 日本装削蹄協会	蹄形の作り方や蹄角度に関する削蹄状況の調査により削蹄技術の見直しを行うとともに、生産段階での護蹄管理の推進と削蹄師の削蹄技術向上のための技術講習会を開催する。	52,398
64	乳用牛供用期間延長のための新規技術開発事業	学校法人 東京農業大学	長期不受胎牛の繁殖救済を実現する新規追い移植技術を開発し、乳用牛の供用期間延長を図る。	75,751
65	馬の流通に係る若手後継者の育成調教技術向上推進事業	(公社) 全国乗馬倶楽部振興協会	乗用馬の生産地において高度な調教技術講習を受けた指導者による乗用馬としての馴致を行うことで付加価値を高め、市場での評価向上と乗用馬の市場流通を促進させる。	9,450
66	みつばち腐蛆病予防薬活用等調査研究事業	(一社) 日本養蜂協会 (一社) 生物科学安全研究所	我が国のみつばちの飼養実態について養蜂家への聞き取り調査を行うとともに、平成29年9月に新たに承認されたみつばち腐蛆病予防薬の成分であるタイロシンのはちみつへの移行等に関する調査を行い、我が国のみつばちの飼養実態に即した使用方法の策定やはちみつ中の残留基準を見直す上で必要となる科学的な知見を得る。	76,924
小 計				3,800,736

(注) 上記の各事業は、(公財) 全国競馬・畜産振興会を通じて実施するものである。

事業名	事業実施主体	事業内容	実績額 (千円)
畜産振興事業附帯事業	本会	学識経験者からなる審査委員会を設置し、新規事業を選定するとともに、特定法人において助成金交付業務を行う。また、学識経験者からなる評価委員会を設置し、事業評価を行う。	94,092
小計			94,092
総計			3,894,828

J R A 賞 受賞馬及び受賞者

1. 競走馬部門

	受賞馬	(馬主)	(厩舎)
年度代表馬	アーモンドアイ	(有) シルクレーシング	美浦・国枝 栄 厩舎
最優秀 2 歳牡馬	アドマイヤマーズ	近藤 利一 氏	栗東・友道 康夫 厩舎
最優秀 2 歳牝馬	ダノンファンタジー	(株) ダノックス	栗東・中内田充正 厩舎
最優秀 3 歳牡馬	ブラストワンピース	(有) シルクレーシング	美浦・大竹 正博 厩舎
最優秀 3 歳牝馬	アーモンドアイ	(有) シルクレーシング	美浦・国枝 栄 厩舎
最優秀 4 歳以上牡馬	レイデオロ	(有) キャロットファーム	美浦・藤沢 和雄 厩舎
最優秀 4 歳以上牝馬	リスグラシュー	(有) キャロットファーム	栗東・矢作 芳人 厩舎
最優秀短距離馬	ファインニードル	ゴドルフィン	栗東・高橋 義忠 厩舎
最優秀ダートホース	ルヴァンスレーヴ	(株) G I レーシング	美浦・萩原 清 厩舎
最優秀障害馬	オジュウチョウサン	(株) チョウサン	美浦・和田正一郎 厩舎

2. 調教師・騎手部門

①調教師部門

最多勝利調教師	藤原 英昭 (栗東)
最高勝率調教師	木村 哲也 (美浦)
最多賞金獲得調教師	友道 康夫 (栗東)
優秀技術調教師	木村 哲也 (美浦)

②騎手部門

最多勝利騎手	C. ルメール (栗東)
最高勝率騎手	C. ルメール (栗東)
最多賞金獲得騎手	C. ルメール (栗東)
騎手大賞	C. ルメール (栗東)
MV J	C. ルメール (栗東)
最優秀障害騎手	石神 深一 (美浦)
最多勝利新人騎手	該当者なし
特別賞	武 豊 (栗東)

◎地方競馬全国協会を通じた交付金の交付

【競走馬生産振興業務への交付】

- 地方競馬全国協会が行う、軽種馬流通促進・経営基盤強化対策等の「競走馬生産振興業務」に対し2,455,000,000円を交付

【認定競馬活性化計画補助業務への交付】

- 地方競馬全国協会が行う、認定都道府県等に対する「認定競馬活性化計画補助業務」に対し737,793,099円を交付